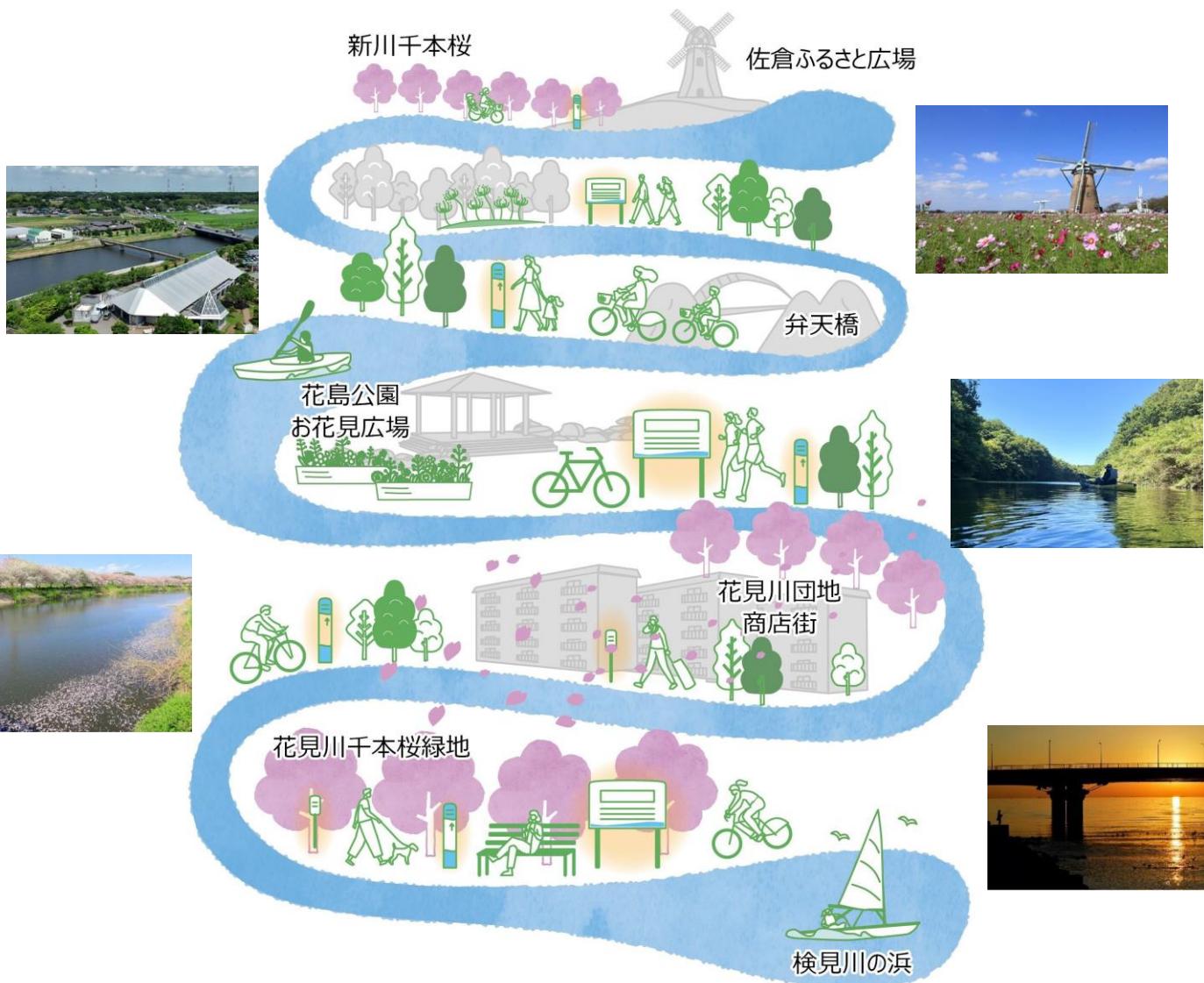


千葉うみさとライン (花見川サイクリングコース) サインガイドライン



千葉市



東京湾と印旛沼をつなぐ花見川・新川流域の約30km

ここは自然と暮らしが融合する場所、通称「千葉うみさとライン」。

移り変わる風景や思い思いの活動が楽しめるこのエリアで、

サイクリングコースのサインが新しく生まれ変わります。

『うみさとの魅力を引き立て、かわとまちをつなぐ』

そんなサインに対する想いを、この表紙デザインに込めました。

サインガイドライン作成者一同

目次

■ 第1章 はじめに

1-1 本ガイドライン策定の主旨	3
1-2 本ガイドラインの適用範囲	4
1-3 策定までの経緯	6

■ 第2章 現状把握

2-1 エリアの特性	11
2-2 サイクリングコース・サインの現状・課題	12
2-3 「うみさとビュースポット」	14

■ 第3章 うみさとライン サイン整備の基本方針

3-1 サイクリングコースの目指すビジョン	23
3-2 サイン整備の基本方針	24
3-3 ビジョン達成に向けたサインの役割～サインシステムの導入～	26

■ 第4章 サインデザイン 標準仕様

4-1 千葉うみさとラインサインの原則	31
4-2 表示デザイン基準	32
4-3 個別サインのデザイン(構造・形状、記載内容)	38
01 一覧	38
02 総合案内板	42
03 案内誘導板	44
04 分岐板	46
05 距離標・境界標	48
06 規制板	50
07 解説板	52
08 路面標示	54
09 その他の案内	56
10 仮設措置	57

4-4 個別サインの設置場所	58
01 基本的な考え方	58
02 総合案内板	60
03 案内誘導板(交差部型)	62
04 案内誘導板(標準型)	64
05 分岐板	66
06 距離標・境界標	68
07 規制板	70
08 解説板	72
09 路面標示	74

■ 第5章 サインの応用展開

5-1 サインの応用展開	79
01 サインと連動した滞留拠点整備	80
02 情報発信媒体(マップやポータルサイト等)との連携	82
03 ICT技術を活用した情報案内	84
04 民間施設等への案内誘導・ブランドステッカーの配布	86

■ 第6章 今後の運用

6-1 新設・更新の際の協議体制	89
6-2 整備に向けたスケジュール(案)	90
6-3 管理運用体制	91
6-4 管理運用の内容	92

1章 はじめに



1-1 本ガイドライン策定の主旨

千葉市・八千代市・佐倉市の3市では、官民連携で東京湾と印旛沼をつなぐ花見川・新川流域一帯の魅力を高める取組みとして「千葉うみさとライン※」プロジェクトを令和6年に始動しました。同時に、沿川では水辺の拠点整備等を進めるための「印旛沼・印旛放水路かわまちづくり計画」が動き出し、花島公園などの水辺の拠点における社会実験の実施や空間の整備が進むなど、花見川から印旛沼にかけて、行政3市と民間が連携した新しい交流およびマイクロツーリズムの基盤が築かれつつあります。

また、千葉市では暮らしの中に自転車の利用を取り入れてもらうことを目指し、「千葉市自転車を活用したまちづくり推進計画」を策定し、各種取組を進めています。本推進計画に基づき、自転車走行環境の整備計画である「ちばチャリ・すいすいプラン」を定め、各区にサイクリングコースの設定をしており、中でも花見川サイクリングコースは市を代表するコースとして、日常利用からツーリングまで幅広い層に利用されています。

本ガイドラインは「千葉うみさとライン」の重要な構成要素である、花見川から印旛沼までのサイクリングコースおよびその周辺の統一的なサインの基本方針、デザイン・標準仕様および今後の運用体制を明確化することを目的に策定するものです。

※ 千葉うみさとラインとは

千葉うみさとラインとは、東京湾(千葉市美浜区磯辺地先)から西印旛沼(佐倉ふるさと広場周辺)までの花見川、新川、西印旛沼周辺エリアのことです。東京湾と印旛沼をつなぐ花見川・新川流域一帯を「自然と暮らしが融合する大きな遊び場」と見立て、民間と行政が協働し、四季を感じる魅力的な取組みを発信していくブランディング活動を行っています。

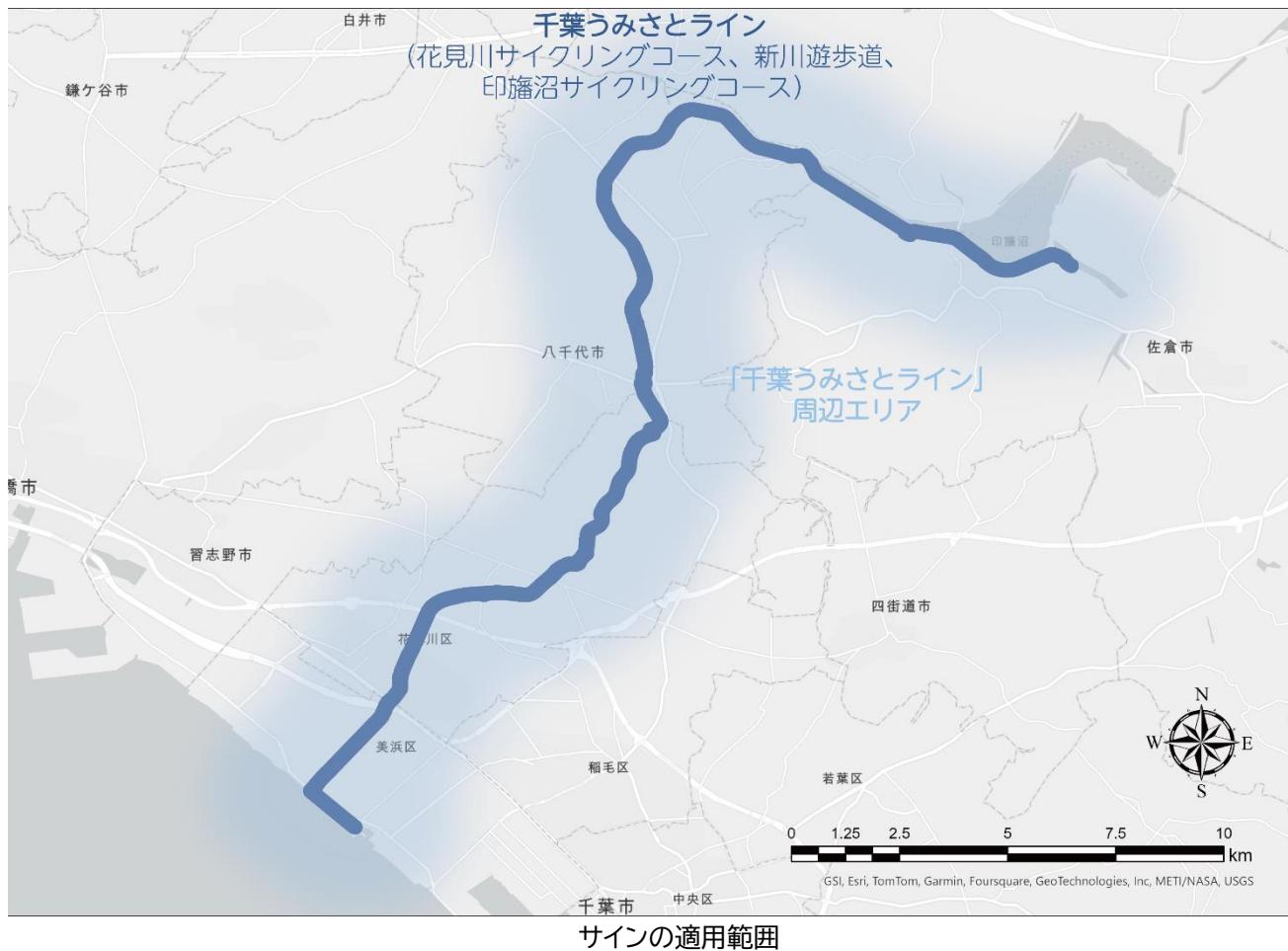
将来的には、北印旛沼および利根川までのエリア拡大を見据えて、活動を行っています。



1-2 本ガイドラインの適用範囲

本ガイドラインにて定めるサインの適用範囲を以下のとおり「千葉うみさとライン」周辺エリアとして設定します。

適用範囲内の対象サインについては、新設および更新を行う際に、本ガイドラインに則って設置することを原則とします。ただし、法令に基づいて設置管理するサインや、特定の施設や区域を対象に独自の基準によって整備されるサインはこの限りではありません。



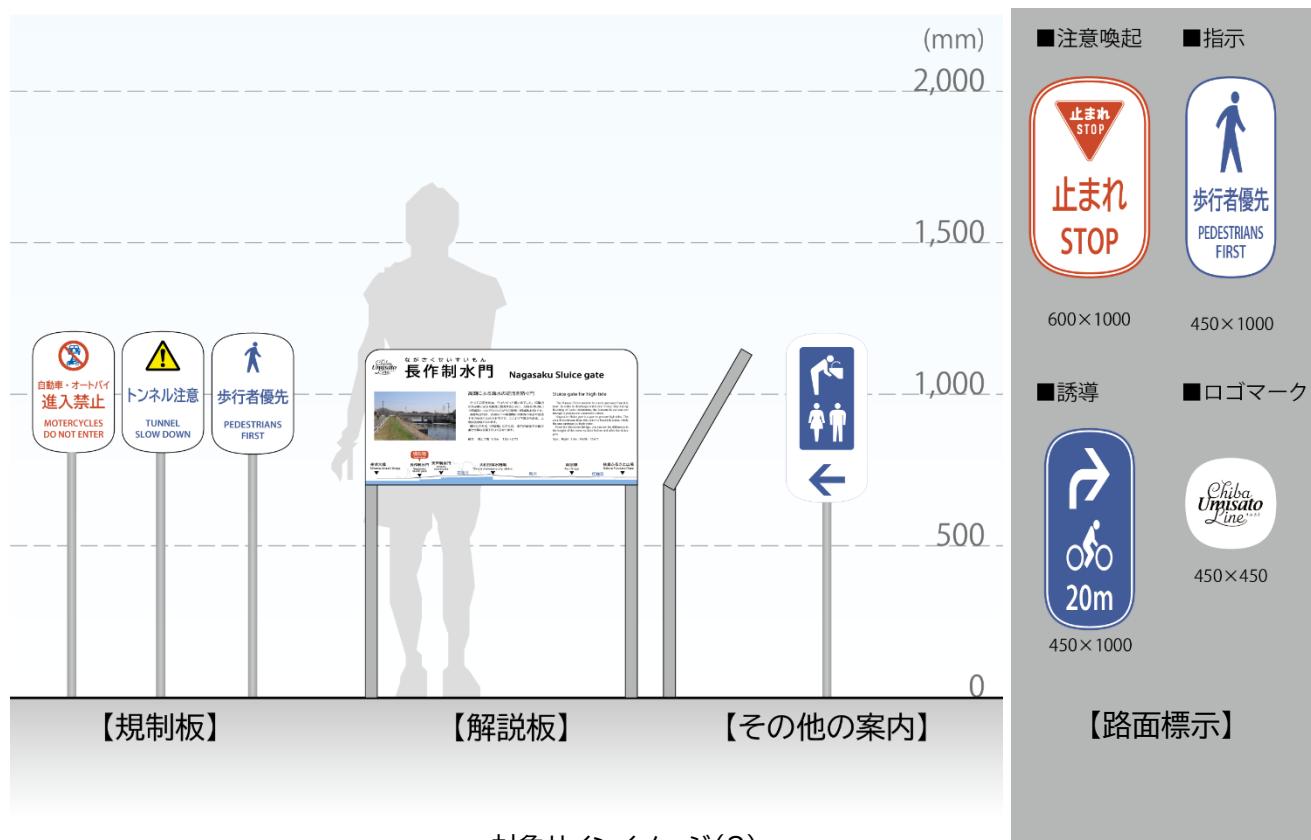
ガイドラインにおける対象サインと適用範囲

対象となるサイン	適用範囲
総合案内板	うみさとライン周辺エリア※1
案内誘導板	うみさとライン周辺エリア※1
分岐板	花見川から印旛沼までのサイクリングコース
距離標・境界標	花見川から印旛沼までのサイクリングコース
解説板	うみさとライン周辺エリア※1
規制板	花見川から印旛沼までのサイクリングコース
路面標示	花見川から印旛沼までのサイクリングコース

※1 千葉うみさとラインとの関連を示すサインに限る



対象サインイメージ(1)

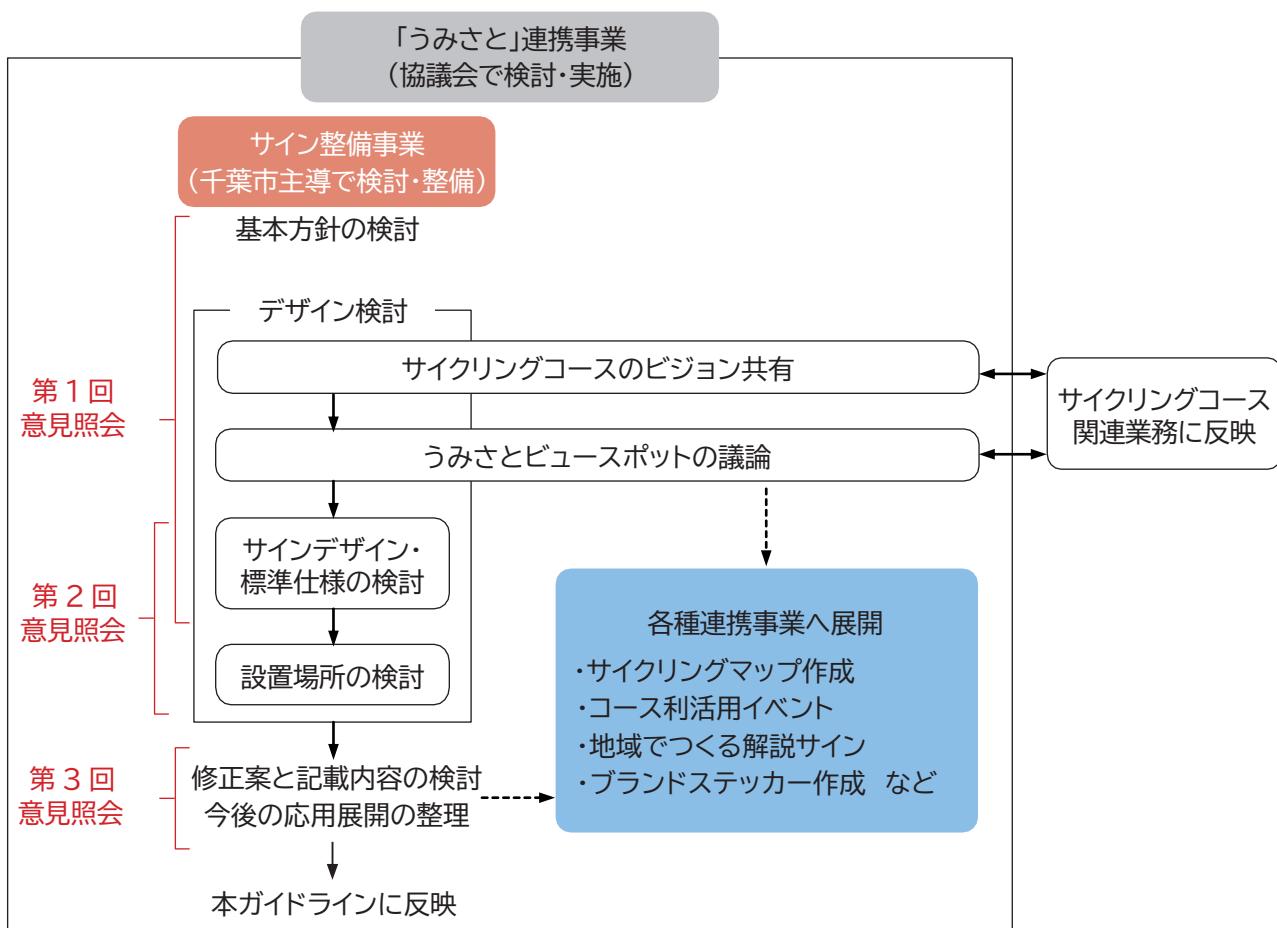


対象サインイメージ(2)

1-3 策定までの経緯

本ガイドライン策定にあたっては、「千葉うみさとライン」連携事業のひとつとして、千葉市から「千葉うみさとライン協議会」に対して計3回の意見照会(ワークショップ)を実施しました。

段階的な意見照会を通じて、協議会メンバーである沿川3市(千葉市、八千代市、佐倉市)および民間事業者・地域団体等の意見や、既設サインの管理者および景観・デザインの有識者の意見を聴取し、既設サインの取扱いや新規サインのデザイン・標準仕様の内容等を調整した、3市共通のガイドラインとなっています。



● 千葉うみさとライン協議会 会員・オブザーバー (R7.4.1 時点)

<会長・副会長>

- ・岡田智秀会長(日本大学理工学部まちづくり工学科教授)
- ・大久保利宏副会長(敬愛大学経済学部経営学科特任教授)

<会員>

- ・(株)みなも ・ミズベリング花見川 ・ミズベリングいんば沼 ・ミズベリング八千代
- ・(有)タキサイクル ・CycleDNA ・(公社)佐倉市観光協会 ・(株)塚原緑地研究所
- ・(株)地域新聞社
- ・千葉市 ・八千代市 ・佐倉市 ・(独)都市再生機構

<オブザーバー>

- ・千葉県サイクリング協会 ・サイクルハウスジロ ・(公社)千葉市観光協会
- ・(株)千葉ニュータウンセンター ・(独)水資源機構千葉用水総合管理所
- ・(一社)幕張ベイパークエリアマネジメント ・幕張新都心若葉住宅街づくりグループ
- ・千葉県

2章 現状把握



2-1 エリアの特性

千葉うみさとラインは、エリアに応じてそれぞれ特徴のある風景を有しており、東京湾から印旛沼までの水辺や豊かな地域資源を生かした個性あるまちづくりが進められています。また、コース周辺2km圏内(自転車で10分程度)に連なる形で、複数の主要な地域資源が点在しています。



沿川の主要な地域資源例

2-2 サイクリングコース・サインの現状・課題

サイクリングコースの現状・課題

利用者の立場での問題点

- ・コース全体に対する現在地がわからない
- ・コース入口や分岐がわかりづらい
- ・歩行者が多く交錯するなどの危険がある



分かりづらい入口



幅員の狭いコース(歩行者交錯危険)

管理者の立場での問題点

- ・施設の老朽化による破損、汚れが目立つ
- ・コースを活用した広域連携の意識が希薄
- ・危険な箇所での対応が不足している



老朽化したサイン



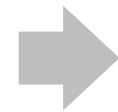
コース周辺の広域案内が不足している案内図

サインの現状・課題

利用者目線での問題点

デザイン
・
仕様

- ・周辺案内が不足している
- ・コースの全体像と現在地がわからない
- ・花見川の意義、役割が伝わらない



課題

情報の充実

設置場所

- ・入口や分岐点がわかりづらい
- ・目的地までの距離、走行距離がわからない
- ・周辺の見どころがわからない



サインの
適材適所

管理者目線での問題点

デザイン
・
仕様

- ・統一感のないデザイン
- ・老朽化(破損や汚れ)
- ・過度な注意喚起



課題

設置場所

- ・異なる管理者のサインが乱立している
- ・川の景観を阻害している
- ・利用者が見づらい位置に設置されている



ルール作りと
運用の徹底



周辺案内が不足する案内図



千葉市と佐倉市の誘導板
(不統一)



千葉市/サイン乱立

2-3 「うみさとビュースポット」

うみさとエリアには、拠点となる施設や川を眺められるスポット、知られざる見どころなどの「うみさとビュースポット」が点在しています。

こうした地域資源を千葉うみさとライン協議会でピックアップし、案内板に掲載することとします。

うみさと情報マップ（千葉市：花見川）





うみさと情報マップ（八千代市：新川）



コース

公園・緑地等

谷津

史跡・名勝・天然記念物

文化財

トイレ

休憩所

展望所

駅

ビュースポット

湧水

桜並木

その他のスポット

彼岸花群生地



梨園が集まるエリア

SCALE=1 / 25,000(A3)

0 1 2km



うみさと情報マップ（佐倉市：印旛沼）



- | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
|  コース |  トイレ |  ビュースポット |
|  公園・緑地等 |  休憩所 |  涌水 |
|  谷津 |  展望所 |  桜並木 |
|  史跡・名勝・天然記念物 |  駅 | ● その他のスポット |
|  文化財 | | |



3章 うみさとライン サイン整備の基本方針



3-1 サイクリングコースの目指すビジョン

「千葉うみさとライン」の重要な構成要素である花見川から印旛沼までのサイクリングコースのサイン整備にあたり、コースおよび沿線地域が今後どのような場所を目指していくのがよいか、共通認識となるビジョンを以下の通り定めています。

位置づけ

日常利用

- ・地域住民が通勤・通学や散歩・サイクリングなどで利用する生活用道路

3市を繋ぐ軸線

- ・東京湾から印旛沼まで、花見川・新川に沿って3市が繋がっていることを意識させる
最も重要な軸線

観光資源

- ・川を眺めたり移り変わる風景を楽しんだりできる1つの観光資源

目指していくコースの姿

誰もが安全に
利用できる
コース

- ・生活用道路として住民に寄り添い、安全で安心して利用でき、適切なマナーが定められた誰にでも優しいコース
- ・地元の住民も、集まった自転車愛好家も、だれもが快適に利用でき、走っていて楽しく魅力が感じられるコース(滞留空間整備も含む)

うみさとエリア
全体に交流が
波及するコース

- ・30km もの区間ほぼ平坦な道のりで水辺を走る他にはない特徴を生かして、将来的に余暇で楽しむ自転車愛好家のポタリング需要もより多く取り入れるコース(利根川・手賀沼等の周辺地域への派生・連携も視野に)
- ・コース利用者がつい沿道施設、周辺施設に寄り道したくなるような、うみさとエリア全体に交流が波及するコース

かわとまちの
魅力や風景が
感じられるコース

- ・地域ごとの特徴や魅力をより強調しつつ、コース全体の統一感があるコース
- ・川や水に密着した生活の習わしや季節の移ろい、季節ごとの催しを感じられるコース(うみさとラインを活かしたトライアスロンができるかも)

3-2 サイン整備の基本方針

エリアプランディングを進めているうみさとエリアにとって、3市共通のサインの整備は、「千葉うみさとライン」のエリア内外に魅力を伝え、官民連携を推進し、エリアとしての価値を向上させていく基盤となります。

このことを踏まえ、前述のエリアの特性や現状・課題、目指すビジョンより、快適な利用環境の創出は当然のこと、“プランディング”や“回遊性の向上”も重要な要素と位置づけ、それぞれの前提のもとで、計画策定に係る3つの基本方針を定めています。

01

快適な利用環境の創出に資するサイン

前提

サイクリングコースの安心・安全や利用しやすさの面で、利用者・管理者それぞれの立場での課題がある。

基本方針

国籍、障がいの有無などを問わず、誰もが安心して快適にコースを利用できる一助となるサインとすることで、「うみさと」の基盤の強化を図る。

02

回遊性の向上に資するサイン

前提

川沿いおよびコース沿道約2km圏内(自転車で10分程度)に連なる形で複数の地域資源が点在している。

基本方針

目的を持ってコースを利用する人々に対して、目的外の場所への寄り道を案内・誘導し交流を増加させるサインとすることで、エリア全体の価値向上を図る。

03

ブランディングに資するサイン

前提

「うみさと」では花見川・新川流域一帯を「自然と暮らしが融合する大きな遊び場」と見立ててブランディング活動を実施している。

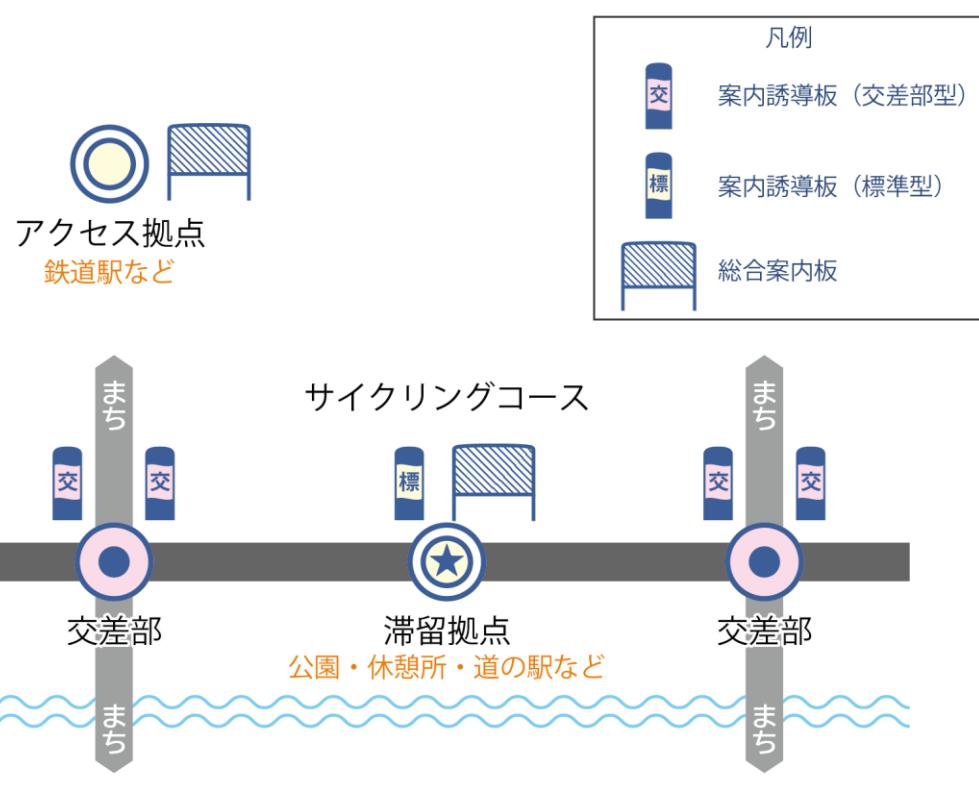
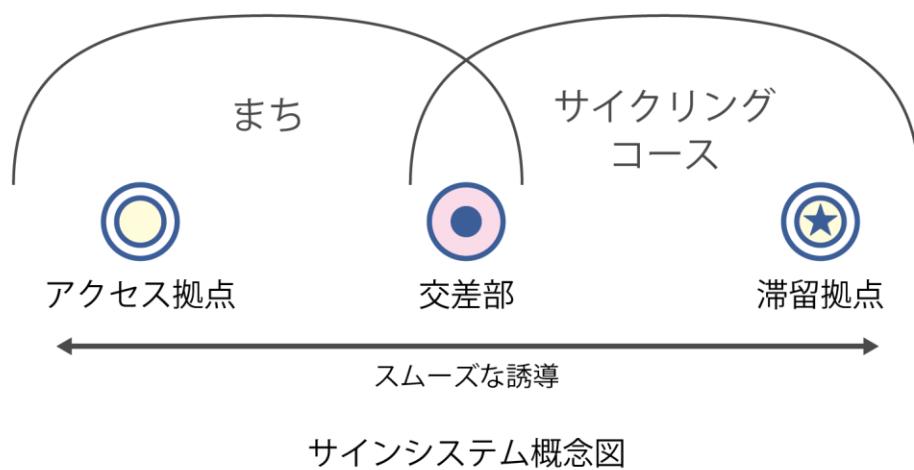
基本方針

特徴的な資源を生かし、自転車で行ける範囲にも魅力的で楽しい遊び場があることを演出するサインとすることで、地域住民のシビックプライドの醸成、QOL 向上を図る。
千葉うみさとラインを印象付ける、洗練されたデザインを採用する。

3-3 ビジョン達成に向けたサインの役割～サインシステムの導入～

目指すビジョンの達成に向け、利用者にとってわかりやすく、ストレスなく導かれるよう一連のサインを体系的に整備するサインシステムを導入します。まちから交差部を介してサイクリングコースへと、スムーズに誘導します。

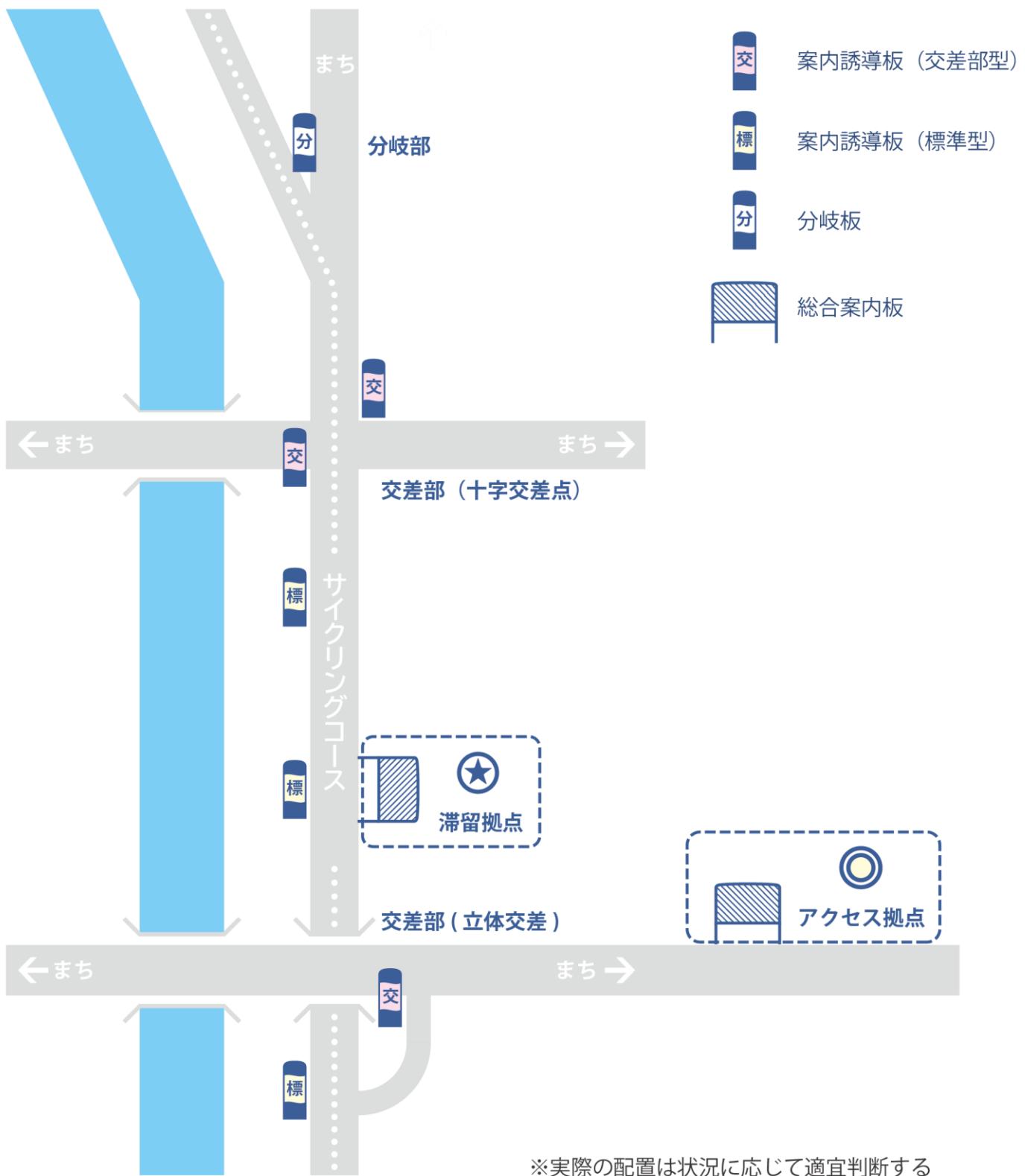
交差部と滞留拠点をサイクリングコースの誘導ポイントと位置づけ、案内誘導板と総合案内板を基軸に、コースの入口や分岐点を分かりやすく示し、コースの全体像や現在地が把握できるサインシステムとしていきます。



各サインの役割、標準仕様、配置の考え方を設定し、「千葉うみさとライン」として三市統一のサインシステムを構築します。(各サインのデザインや標準仕様の詳細は第4章参照)

誘導の基軸となるサイン		案内誘導板(交差部型・標準型)	総合案内板	
	役割	現在地点名の表示 次の誘導ポイント等の案内 注意喚起表示等	コース全体や広域の案内 現在地の図示および周辺の詳細案内 利用上マナー等	
	配置の考え方	誘導ポイントごとに配置	滞留拠点やアクセス拠点中心に適宜配置	
機能を補完するサイン		分岐板	距離標・境界標	その他のサイン
	役割	コースの方向表示	距離・行政界の案内	近隣施設案内 見どころの解説・案内
	配置の考え方	コースの分岐部に配置(路面表示を適宜併用)	1kmごとに配置 行政界に配置	コースから施設が分かりづらい場合に適宜配置 うみさとビュースポット等に配置
注意喚起サイン		(イメージ)	(イメージ)	(イメージ)
	役割	(路面標示)		
	配置の考え方	規制や注意喚起が必要な場所に配置 (路面標示を適宜併用)	(路面標示)	

交差部には、十字交差点や立体交差など、いくつかのパターンがあります。
それぞれのパターンに合わせた案内誘導板の配置の考え方を示します。



4章 サインデザイン 標準仕様



4-1 千葉うみさとラインサインの原則

千葉うみさとラインサインの原則を以下の通り定めます。

デザインの統一

- ・うみさとの風景にとけ込むスケール感とする。
- ・丸みを帯びた柔らかい形状とする。
- ・青色(コバルトブルー)を基調とした色彩とする。

情報の集約と充実

- ・情報を厳選し、一つのサインに収める。 ⇒ 利用者が情報を取得しやすくなり、景観も良くなる。
- ・必要な情報を必要なタイミングで伝える。 ⇒ 利用者がストレスなく目的地に導かれる。
- ・周辺の情報を充実させる。 ⇒ コースとまちの回遊性が向上する。

ユニバーサルデザイン

- ・文字や図が視覚的に分かりやすく、誰にとっても見やすいデザインとする。
- ・原則すべての情報を2カ国語表記とする。地名はルビ表記も併用とする。

4-2 表示デザイン基準

書体

- ・視認性の高いゴシック体(英文はサンセリフ系)とする。推奨フォントは和文は BIZ UDP ゴシック、英文・数字は Frutiger(フルティガー) または Myriad(ミリアド) とする。

使用できる書体

BIZ UDP ゴシック -Bold **Frutiger**
Myriad Pro -Semibold

- ・総合案内板の周辺案内の文章は、可読性の高い明朝体(英文はセリフ系)とする。
推奨フォントは和文は BIZ UDP 明朝、英文・数字は Times New Roman とする。

使用できる書体(総合案内板の周辺案内)

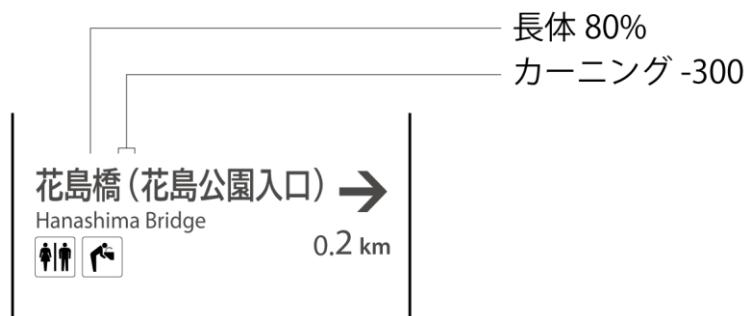
BIZ UDP 明朝 **Times New Roman**

- ・その他の書体の使用は不可とする。

使用不可

楷書体 教科書体 丸ゴシック ポップ体 筆文字
Arial Century

- ・既定の横幅に文字が入りきらない場合で、レイアウト上やむを得ない場合は、長体 80% まで許容する。ただし「()」括弧や「・」中黒など記号類がある場合は、可読性を損なわない範囲でカーニングをおこない、文字の長体化はできるだけ避ける。



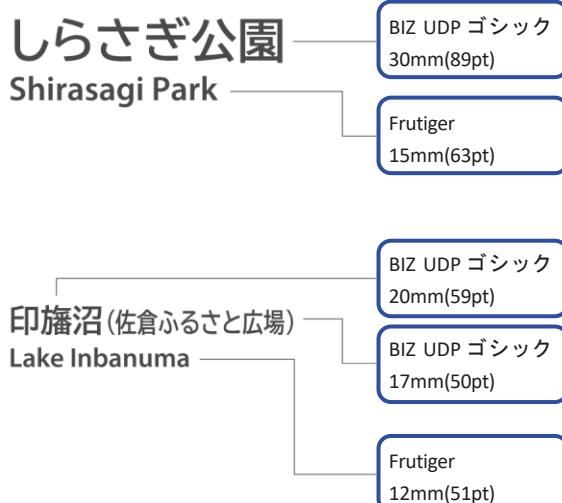
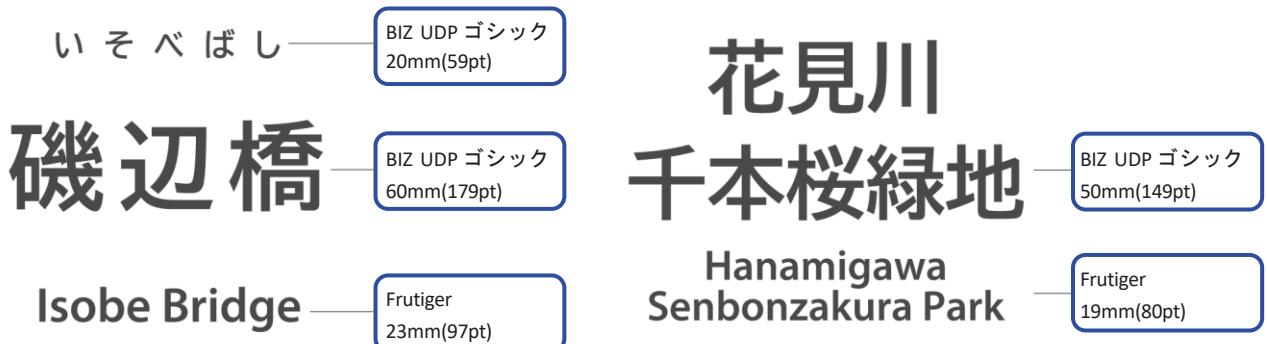
文字の大きさ

- ・視距離に応じた文字高さを設定する。
- ・自転車の走行速さを考慮し、主要な情報は文字高さを1.5倍程度とすることを検討する。

	1.5倍の文字高さ	
視距離	和文文字高	英文文字高
30m	120mm 以上	90mm 以上
20m	80mm 以上	60mm 以上
10m	40mm 以上	30mm 以上
4 ~ 5m	20mm 以上	15mm 以上
1 ~ 2m	9mm 以上	7mm 以上

※『公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン』令和2年3月 国土交通省

- ・各表示項目の文字サイズの規定



Scale=1/5

色彩

基調色

- うみさとの青系のイメージに即しつつ、コントラスト比が確保できる色の組合せとして、コバルトブルーの基調色+白文字を採用する。
- 白文字は視認性を高めるためにドロップシャドウをつける。

文字・矢印・ピクトグラム

- ゴシック系の文字は、視認性を確保しつつ柔らかい印象をもたせるため、ダークグレー色(K85%)を採用する。
- 総合案内板に用いる明朝体、セリフ体の文字は可読性を考慮し黒(K100%)とする。
- 規制系の表示内容に使用する色は、指示系:青、注意:黄色、禁止:赤とする。

マンセル値
青 2.5PB 4.5/10
黄 7.5Y 8/12
赤 8.75R 5/12

その他

- ロゴマーク等は上記の規定によらず、各ロゴマークの使用規定に則るものとする。



基調色

コバルトブルー

DIC-N890
マンセル値 4.1PB 3.2/8.8
sRGB 0/79/137

文字色

公園 ↑

K85%

文字のドロップシャドウ



オフセット量:右1mm, 下1mm
カラー:CMYK=100/100/0/0



ピクトグラム

- ・休憩施設等の情報をひと目で理解できるよう、案内用図記号(ピクトグラム)を効果的に併用する。
- ・ピクトグラムの大きさは 35mm 角以上とする。



- ・ピクトグラムの種類



『標準案内用図記号ガイドライン』令和3年8月 (公財)交通エコロジー・モビリティ財団
(*印:交通標識 **印:上記を元にしたオリジナルピクトグラム)

矢印

- ・矢印の形状は下図による。それ以外の形状は使用しない。
- ・矢印とピクトグラムを組合わせる場合は、基準枠を合わせる。
- ・矢印と文字と組み合わせる場合は、原則、基準枠と文字高さを合わせる。

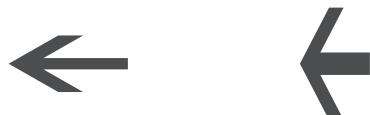


応用例



使用不可

縦横比の変更



他の図形

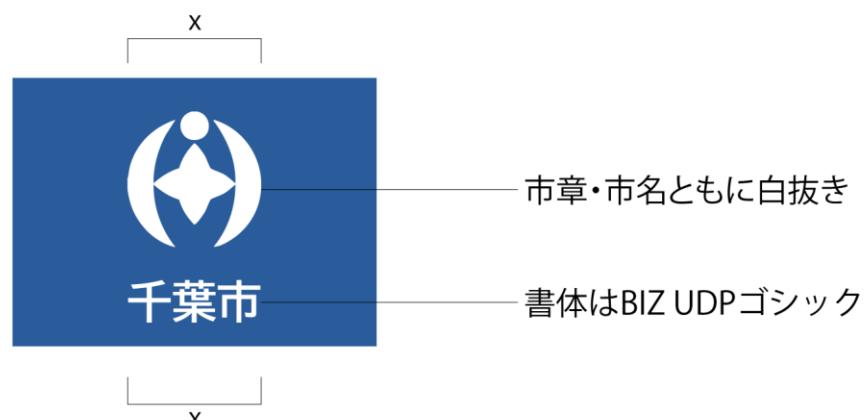
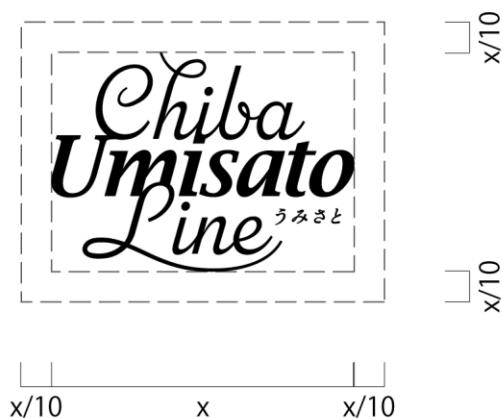


書体による矢印



ロゴマーク・市章

・使用規定に準ずる。



4-3 個別サインのデザイン(構造・形状、記載内容)

01

一覧

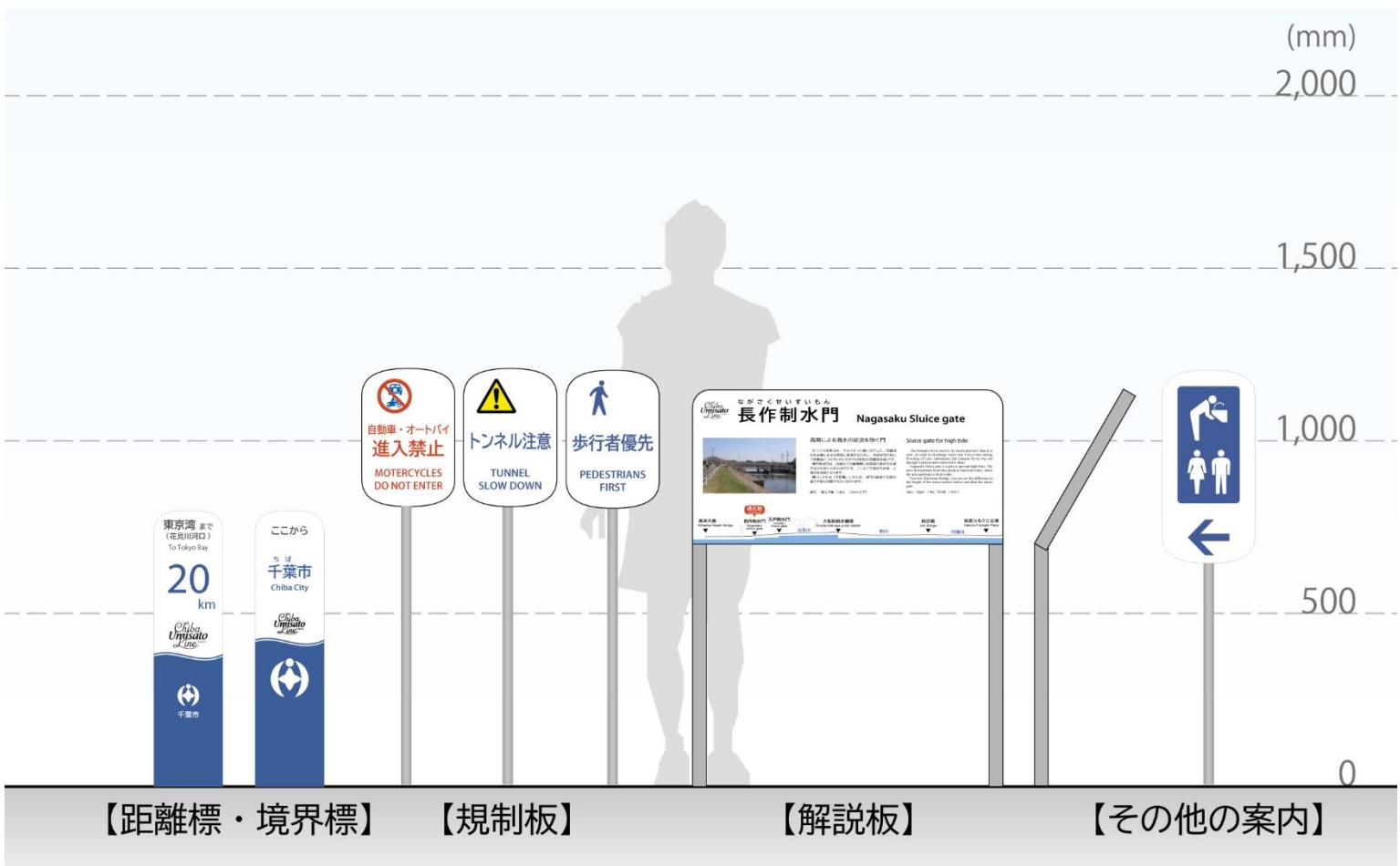
表示内容

- ・青と白を基調とし、2色の境界線は河川の流れや波をイメージさせる柔らかい曲線を用いる。
- ・うみさとラインのロゴマークを入れる。



形状

- ・全体的にコンパクトなスケール感で、目線の高さ(地面から 1.5m)より下に収める。
- ・シンプルな長方形を基本とし、上部に(規制板は下部にも)スーパー橋円を用いて柔らかいイメージをつくる。

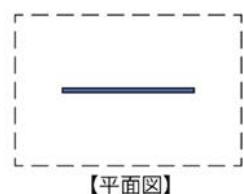


本体構造

【総合案内板】

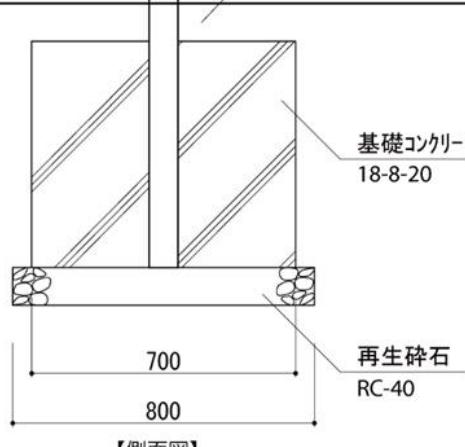


【案内誘導板】

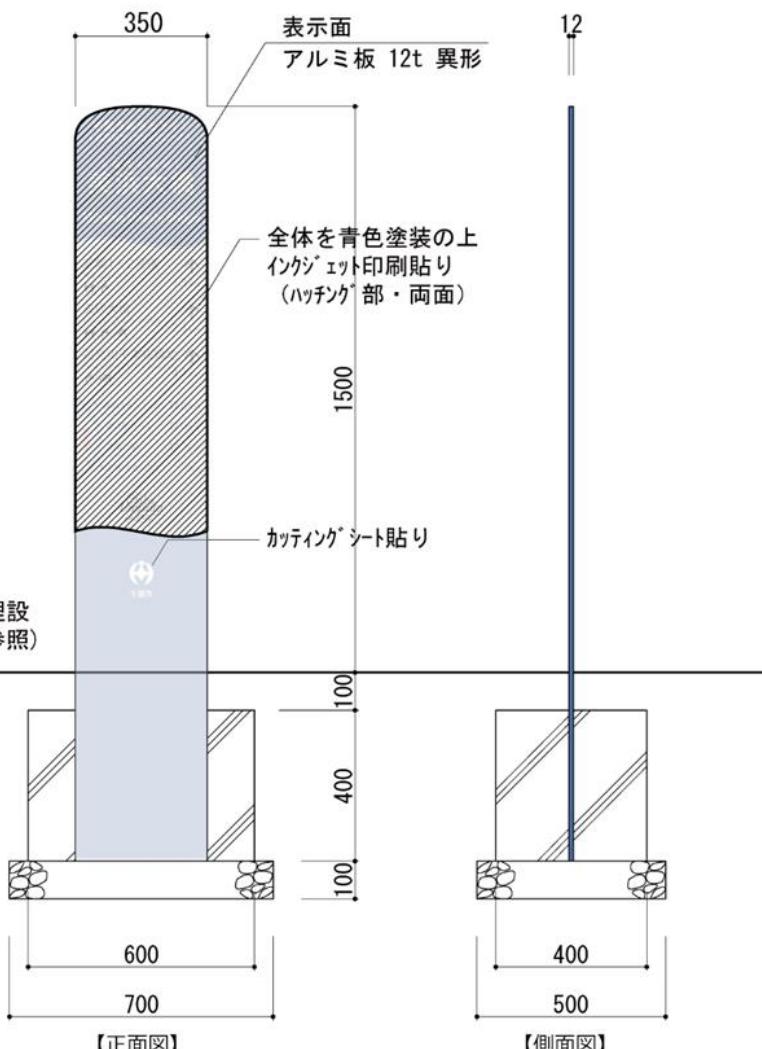


【平面図】

GL



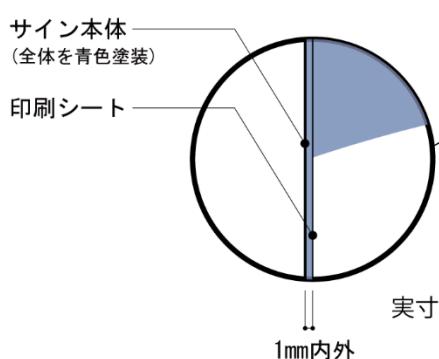
【側面図】



S=1/20

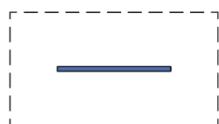


印刷シート貼り詳細図



印刷シートはサイン本体より
1mm程度小さくなるよう制作する。
(表示面の左右に1mm程度本体の青色が見える)

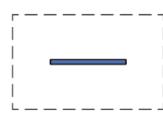
【分岐板】



【平面図】

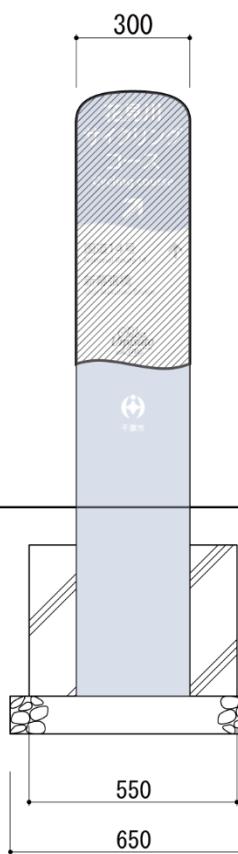
【距離標・境界標】

S=1/10

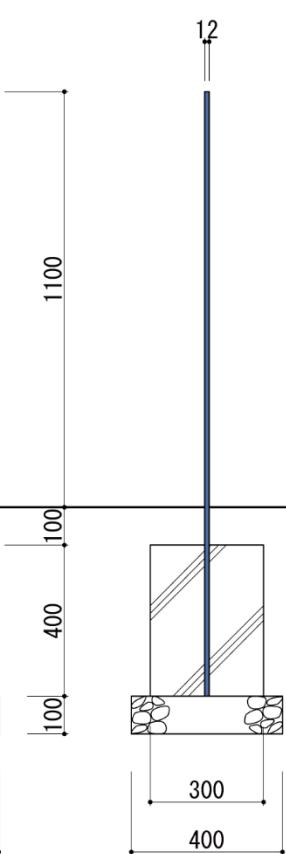


【平面図】

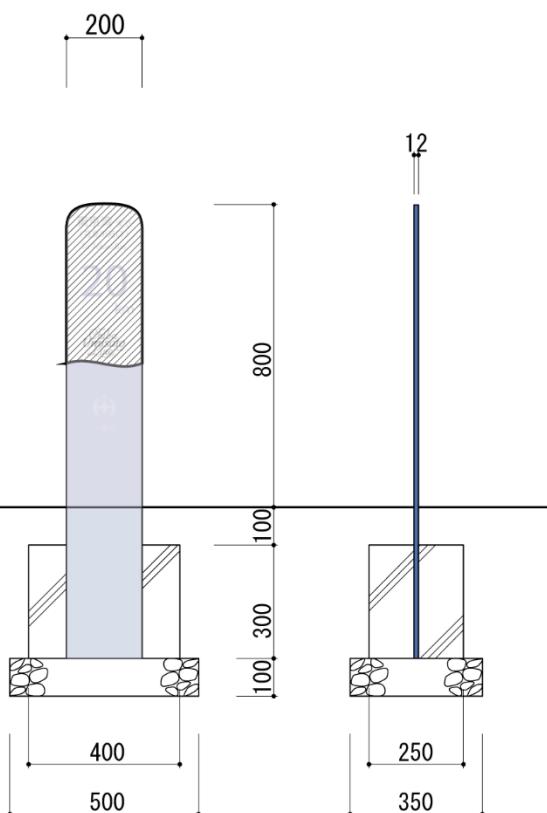
GL



【正面図】



【側面図】



【正面図】

【側面図】

S=1/20

02

総合案内板

表示内容

- ①コース名
- ②コース全体図
- ③うみさとライン全体図
- ④うみさとライン縦断図
- ⑤周辺案内図
- ⑥周辺見どころ紹介
- ⑦利用上のマナー
- ⑧管理者情報

千葉うみさとライン（花見川サイクリングコース）案内図

① 広域案内図

② コース全体図

③ 周辺案内図

④ うみさとライン縦断図

⑤ 花見川千本桜緑地 Hanamigawa Senbonzakura Park

花見川千本桜緑地 Hanamigawa Senbonzakura Park
花見川の右岸に約200mの桜並木があります。春には満開の桜が咲き、また秋には紅葉も楽しめます。特に夜間はライトアップされ、幻想的な雰囲気になります。

⑥ 檜見川の大賀蓮 Discovery site of ancient lotus "Oga-hanu"

1051(神皇 20)年に大賀第一郡坐主公に古墳より出土された二千年前の古代人骨、舟塚古墳。美空・生骨に成功したとして世界遺産に登録されました。

⑦ より詳しい周辺情報 More Information

⑧ マンガで学ぶ「うみさとのおもいやり」

みんなで守りたい「うみさとのおもいやり」

- お はようから始まるコミュニケーション Say hello to each other.
- もうすこしだけゆっくり走ろう Run Slowly.
- いちらつになつて通ろう Line up behind each other.
- やさしい気持ちでゆづりあおう Pedestrian first.
- りかいしよう通行ルール Obey traffic rules.

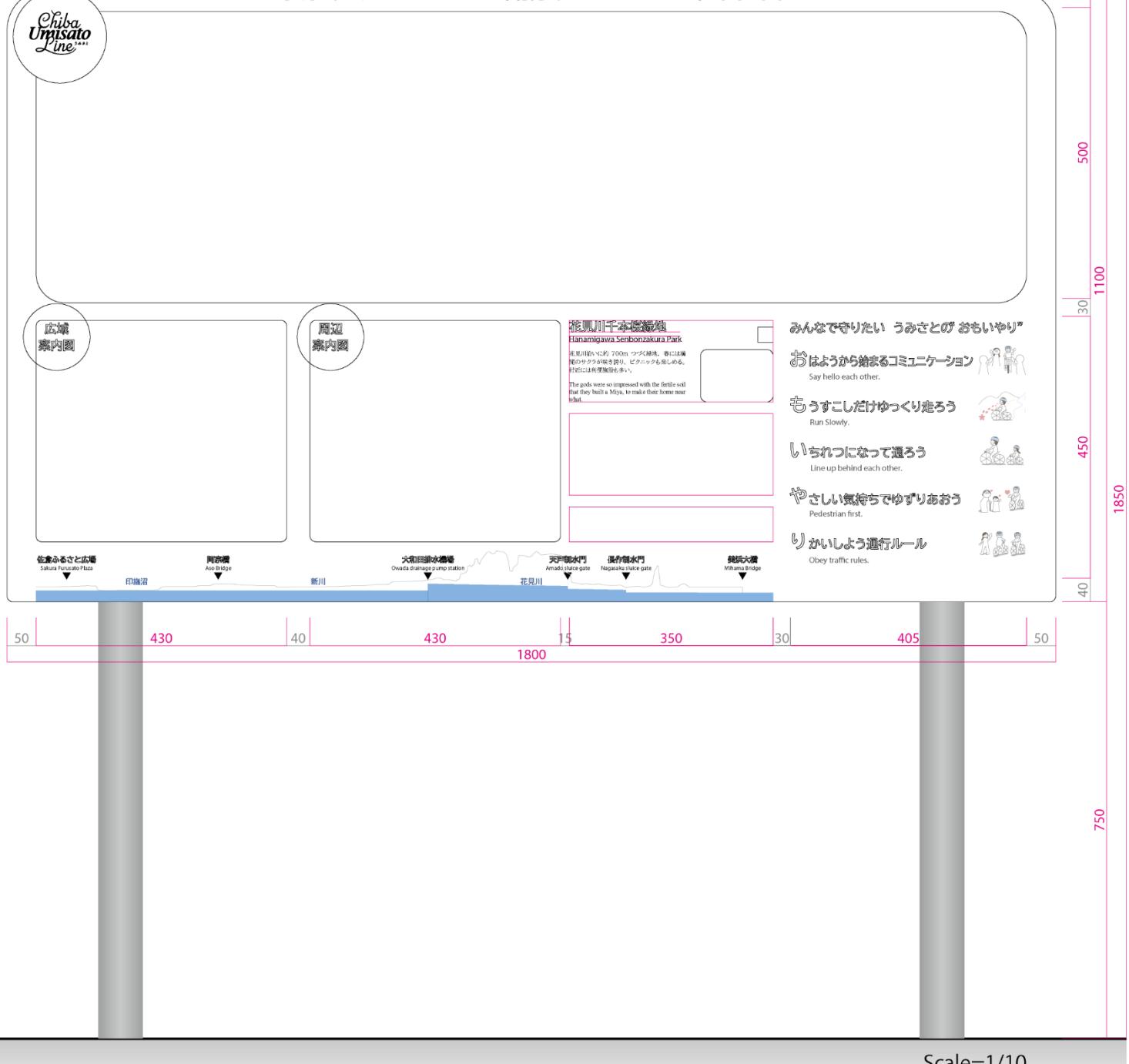
各管理者：千葉市 00000000(043-000-0000)

Scale=1/10

形状

- ・全高:1,850mm
- ・盤面:幅 1,800mm 高さ 1,100mm
- ・支柱はグレー色(マンセル値 N4)
- ・公園に設置する場合など、背面が露になる場合は背面も同様のグレー色とする。

千葉うみさとライン(花見川サイクリングコース)案内図



03

案内誘導板

表示内容

- ①コース名
- ②地点名 収まらない場合はに段組み
- ③周辺案内 標準型:3 地点 交差部型:2 地点
- ④各種情報 標準型:コース全体の案内 交差部型:注意喚起
- ⑤ロゴマーク・市章

交差部型

(道路側)

(コース側)

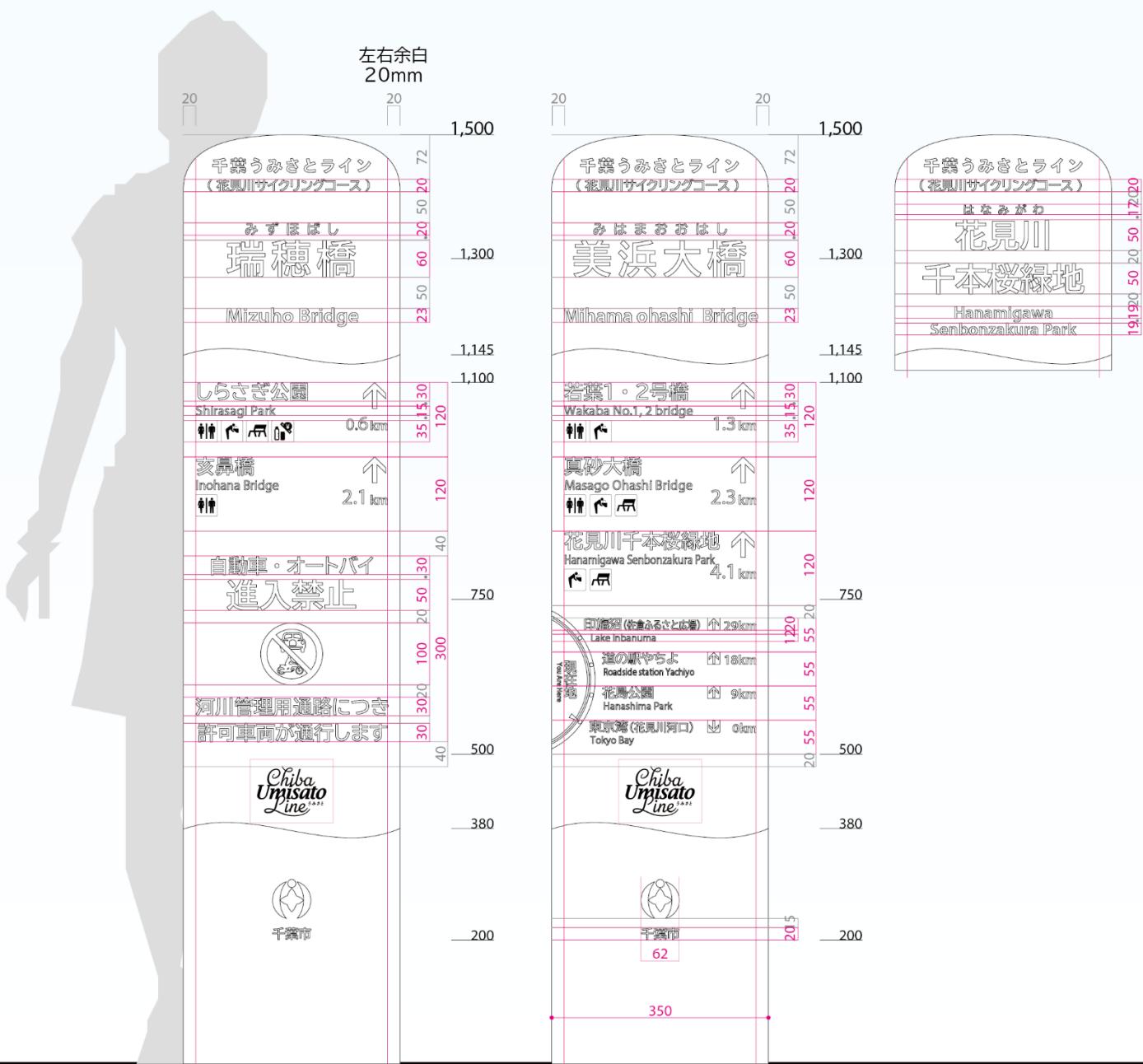
標準型

※地点名を二段組にする場合



形状

- ・全高 : 1,500mm
- ・幅 : 350mm



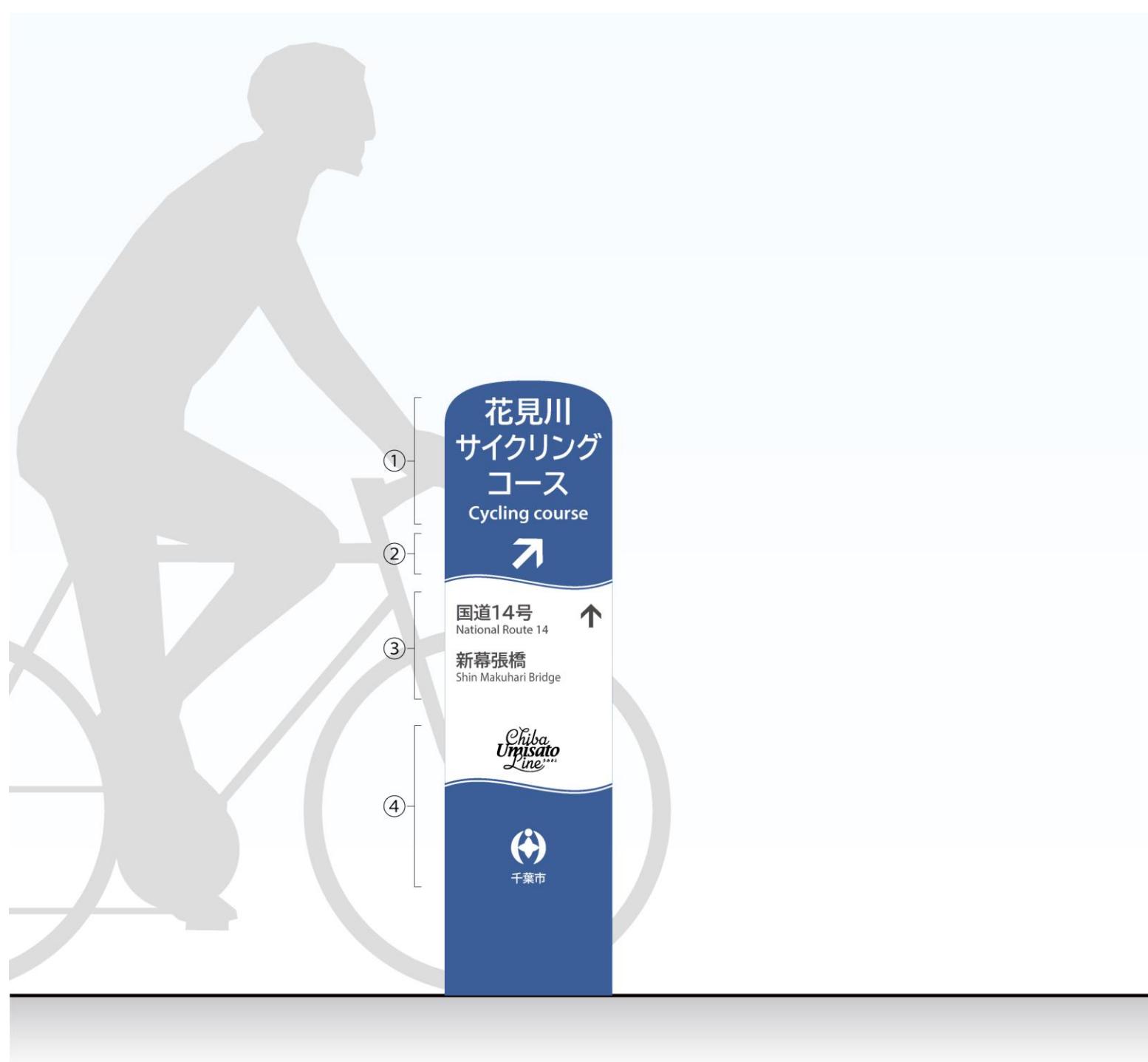
Scale=1/10

04

分岐板

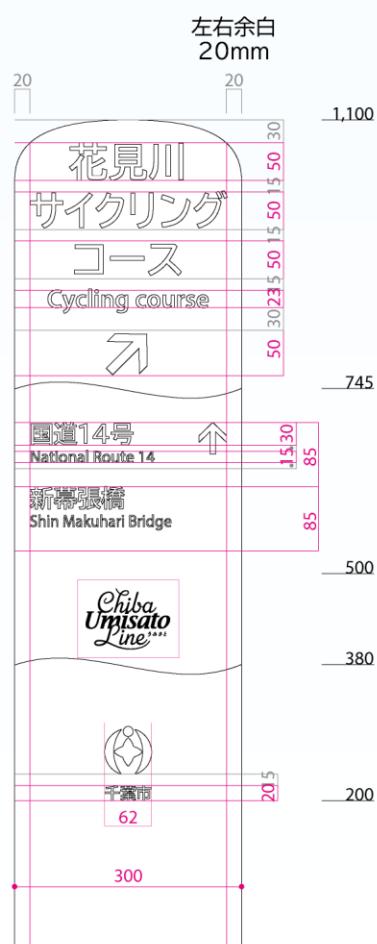
表示内容

- ①コース名
- ②矢印
- ③周辺案内
- ④ロゴマーク・市章



形状

- ・全高 : 1,100mm
- ・幅 : 350mm



Scale=1/10

05

距離標
境界標

表示内容

距離標

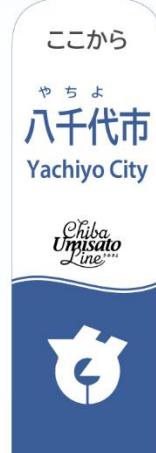
- ①起終点名(東京湾)
- ②距離
- ③ロゴマーク・市章

境界標

- ①ここから
- ②市名
- ③ロゴマーク・市章

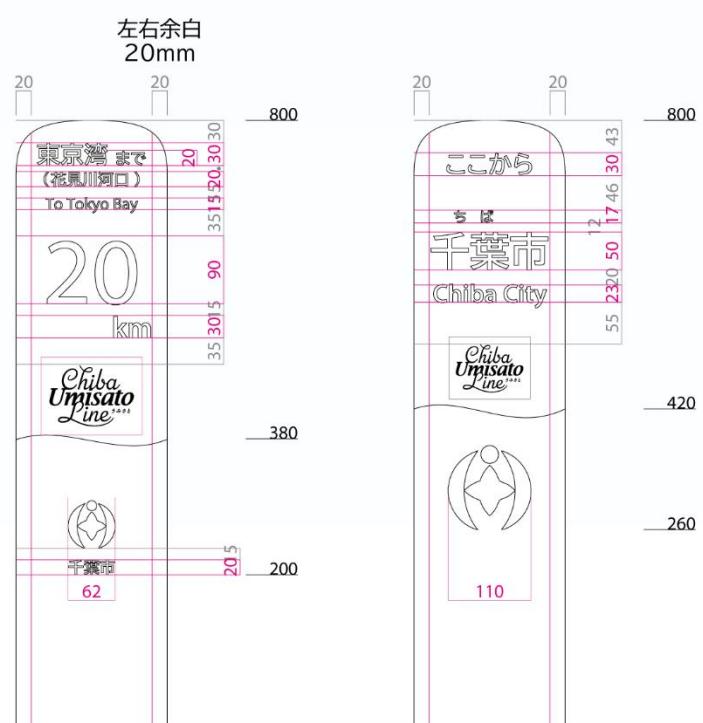
距離標

境界標



形状

- ・全高 : 800mm
- ・幅 : 200mm

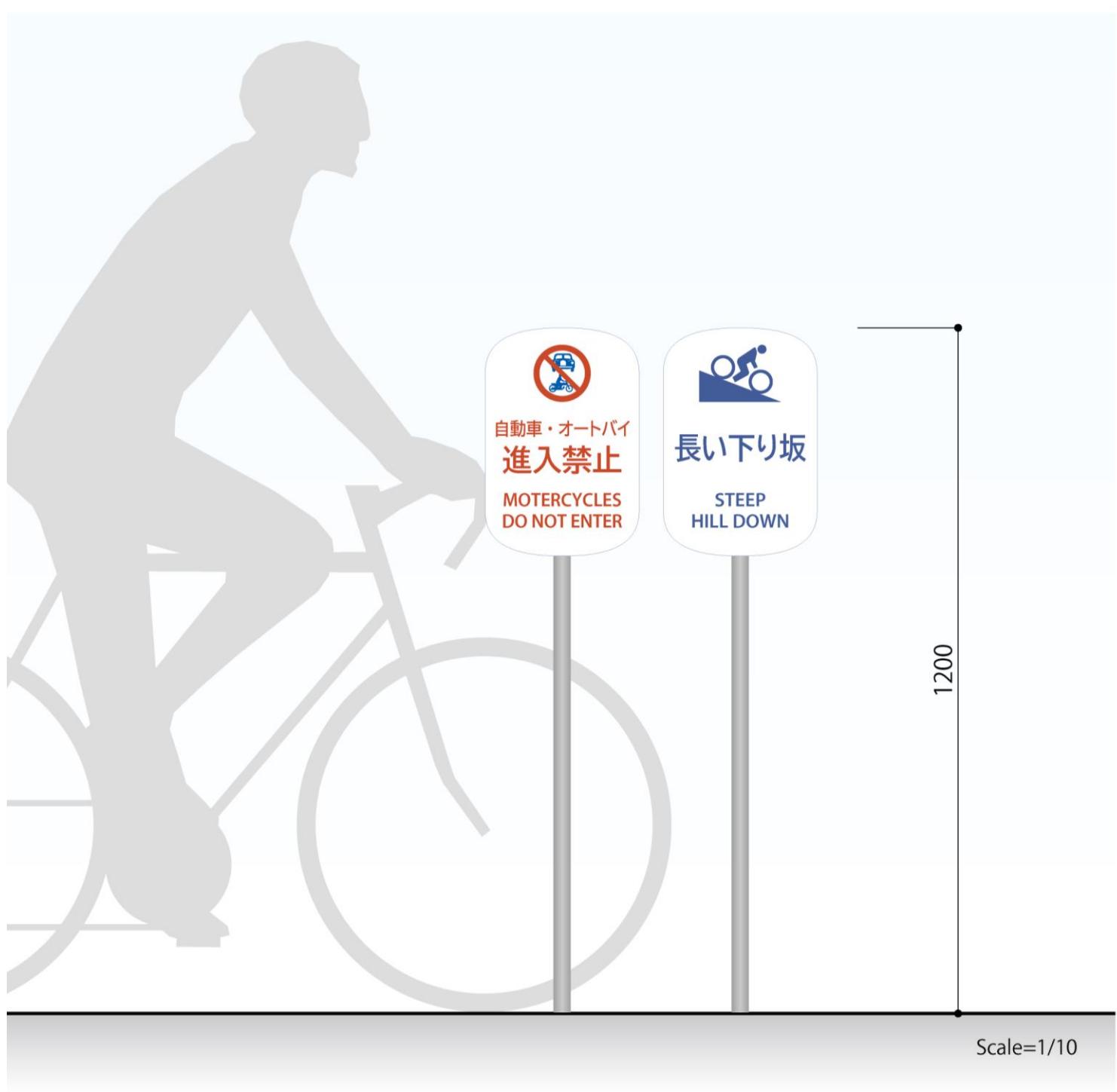


06

規制板

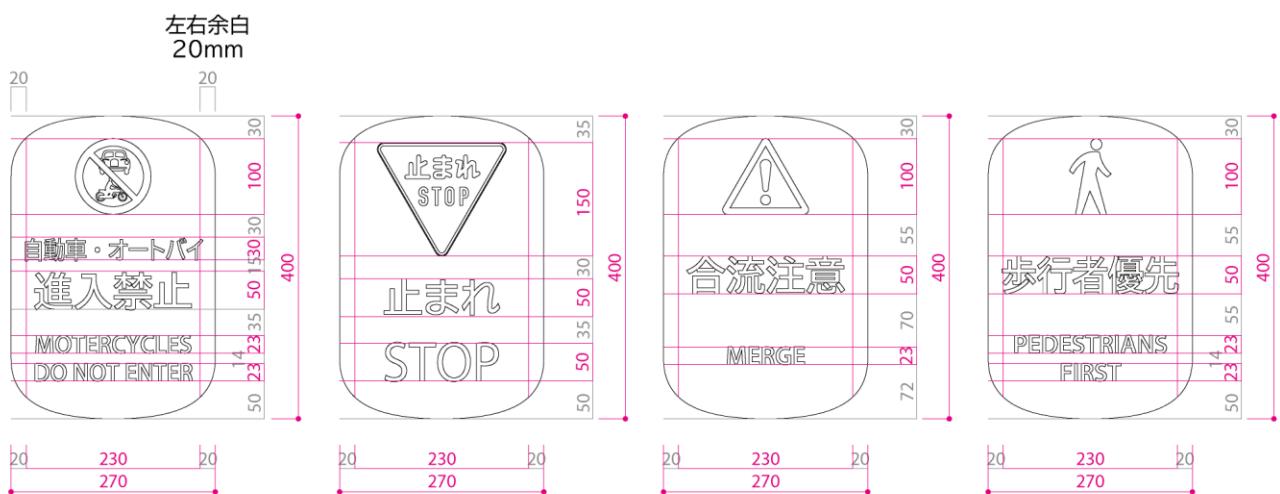
表示内容

- ・種々の規制内容を表示する。
- ・大きいピクトグラムと簡潔な言葉を組み合わせる。(文章にしない)



形状

- ・全高:1,200mm
 - ・盤面:幅270mm、高さ400mm
 - ・支柱:Φ42.7mm
 - ・支柱および背面はグレー色(マンセル値N4)



禁止



■注意喚起



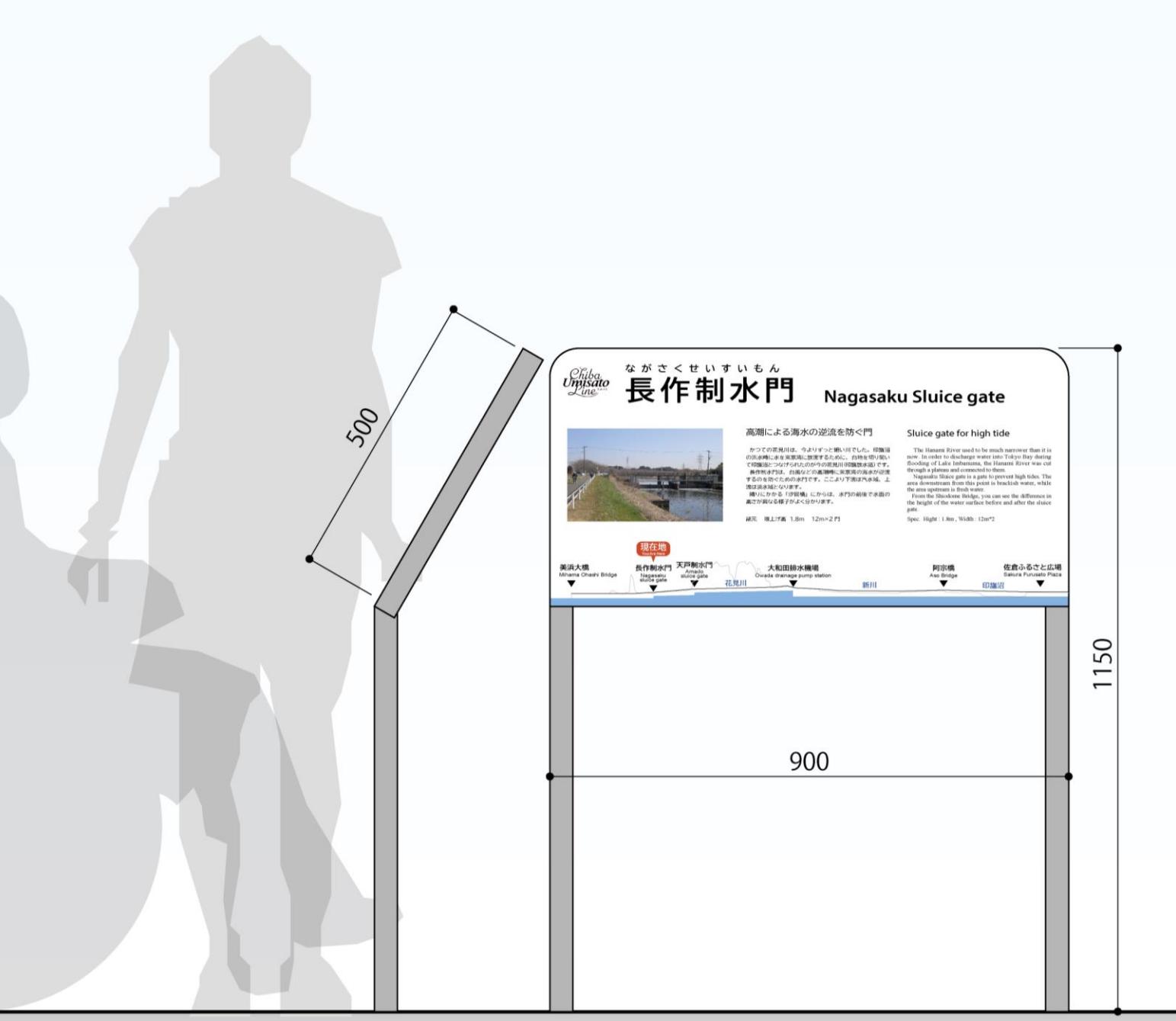
■ 指示



表示内容

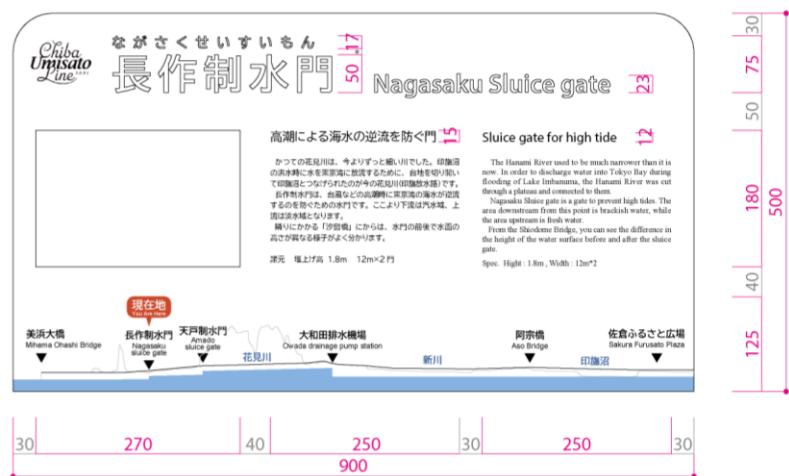
- | | | |
|-----------|--------------|-----------|
| ・名称 | ①美浜大橋の夕日と富士山 | ⑤天戸制水門 |
| ・写真 | ②JR花見川橋梁 | ⑥鉄道連隊演習線跡 |
| ・見どころ解説 | ③花見川千本桜緑地 | ⑦柏井橋梁橋台跡 |
| ・現在地(縦断図) | ④長作制水門 | ⑧横戸の切通し |

設置場所候補



形状

- ・全高:1,150mm
- ・盤面:幅900mm、高さ500mm



08

路面標示

表示内容

- ・種々の規制内容や誘導内容を表示する。
- ・サイクリングコース上に設置する矢羽根は幅400mm、長さ800mmを基本とする。

■注意喚起



600×1000



450×1000

■指示



450×1000

■誘導



450×1000

450×850

■ロゴマーク



450×450

■矢羽根

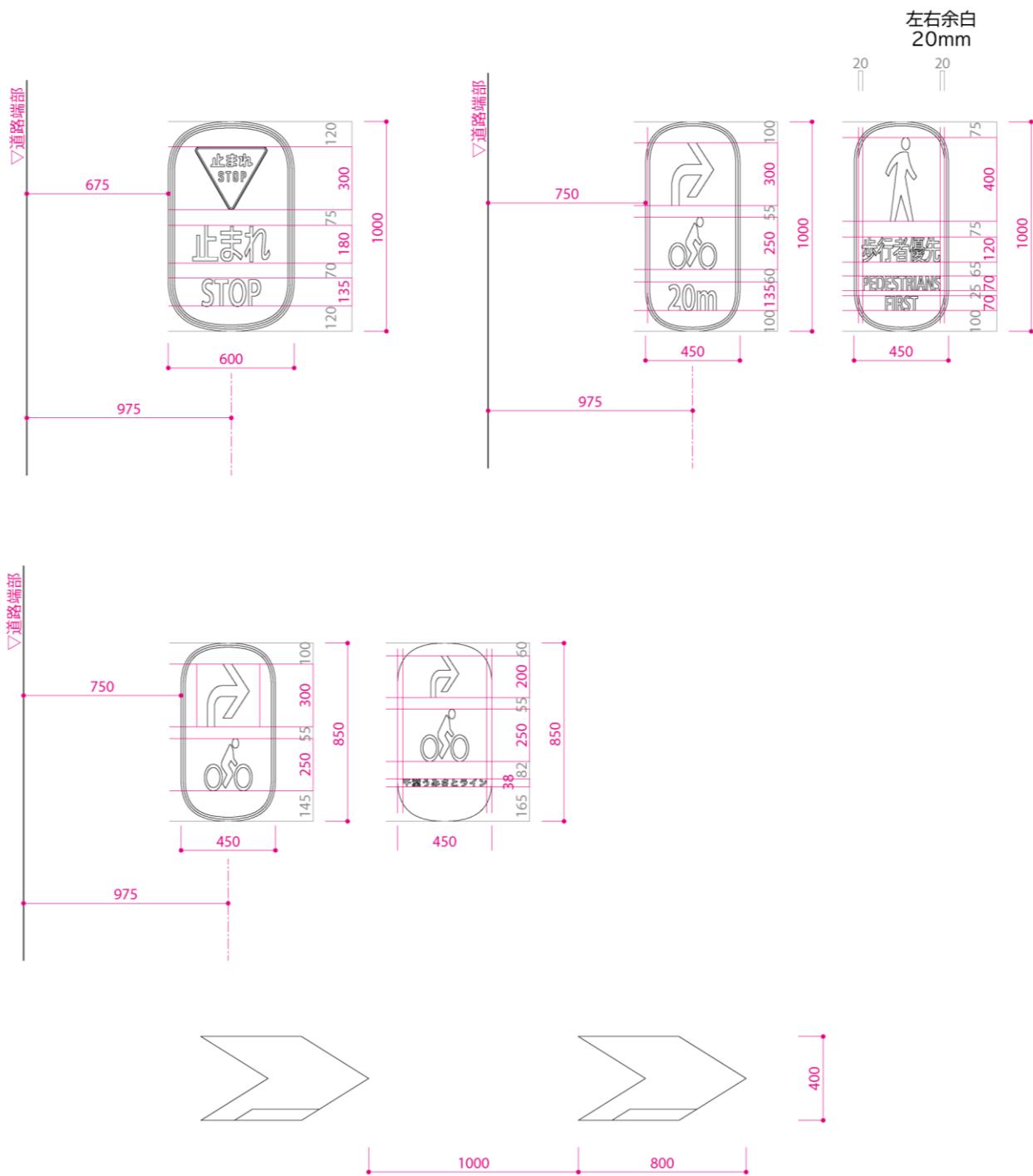


400×800

Scale=1/30

形状

・幅450mmまたは600mmを基本とし、長さは表示内容によって調整する。



09

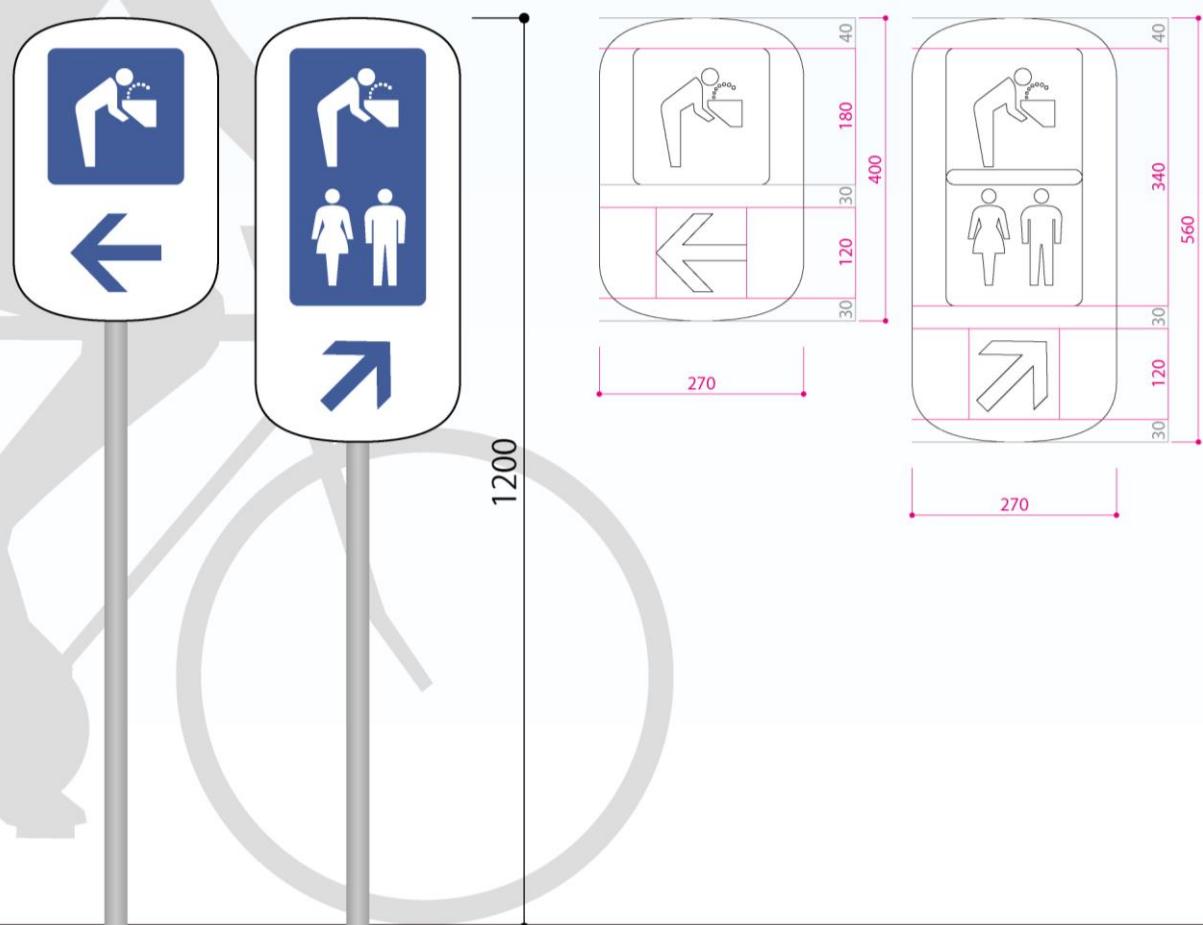
その他の案内

表示内容

- ・ピクトグラム
- ・矢印

表示内容

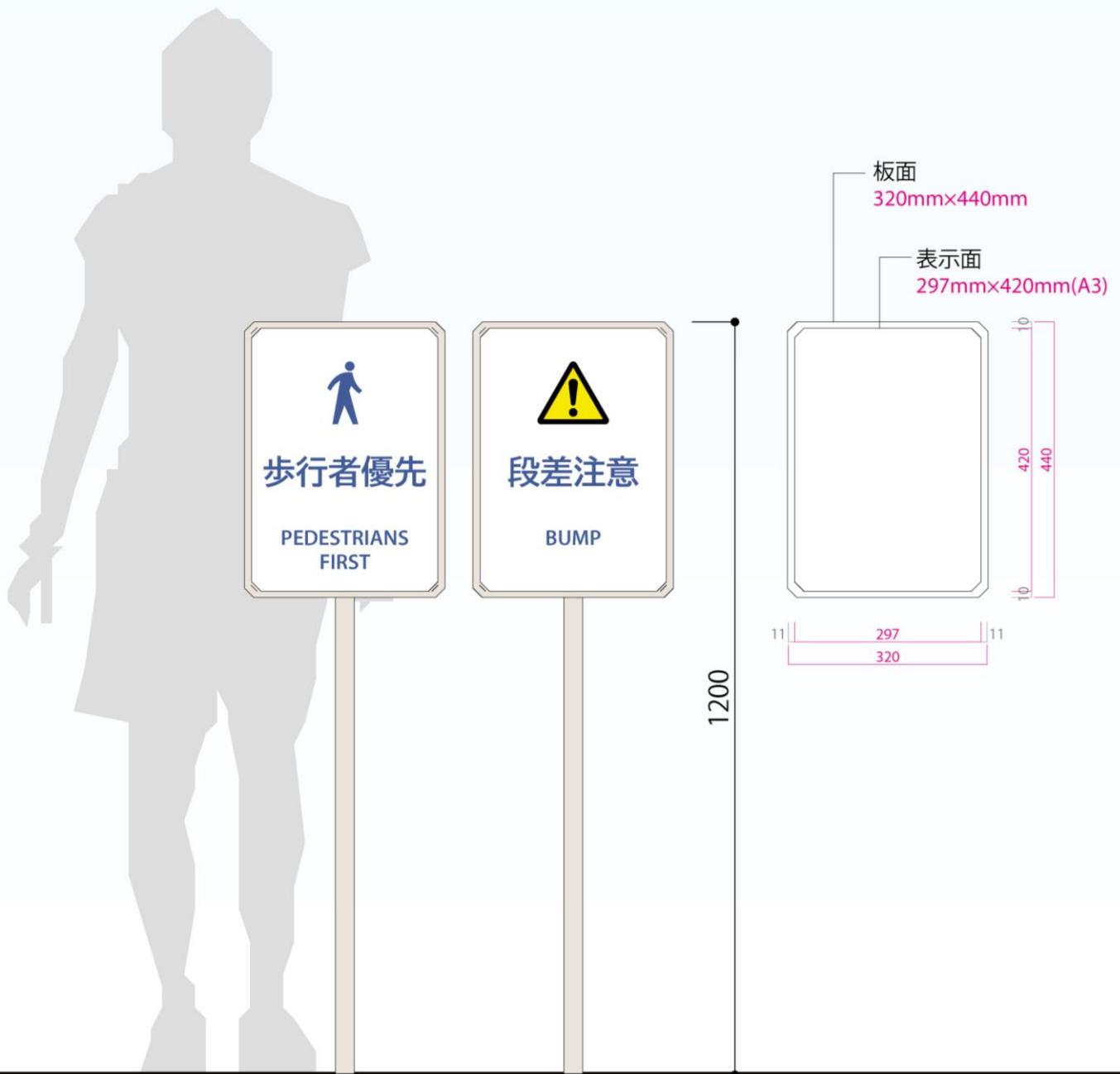
- ・全高:1200mm
- ・盤面:幅270mm、高さ400mm※
※ピクト2段の場合は高さ560mm
- ・支柱および背面はグレー色(マンセル値N4)



10

仮設措置

- ・本ガイドラインの手続きに依らないサインの設置は極力避けるが、緊急的にサインが必要となった場合は、以下のデザインによる。
- ・編集用データを用い、基準に従って表示面を作成する。
- ・外形寸法、設置高さを遵守する。
- ・角面取り(1cm程度)を施すことにより、柔らかい印象に近づける。



4-4 個別サインの設置場所

01

基本的な
考え方

配置

- ・サイクリングコース上は、コース案内が必要な箇所や危険箇所、拠点施設周辺に配置する。
- ・サイクリングコース周辺の「千葉うみさとライン」周辺エリアの拠点となる施設に配置する。
- ・各サインは施設管理者の判断での設置も可とするが、乱立させることのないよう、周囲の景観等に配慮する。

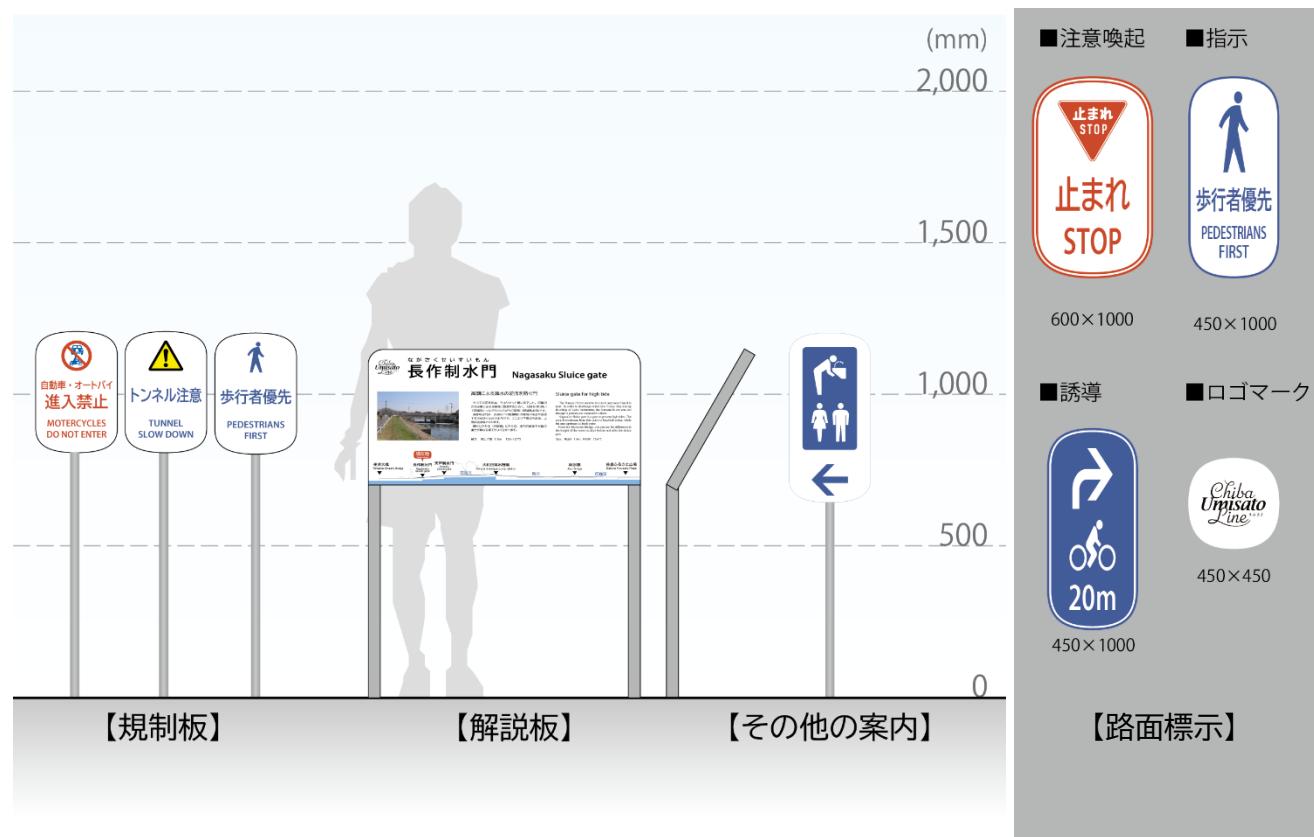
設置位置

- ・サイクリングコース上は、舗装端部から外側1mの範囲内で配置する。
- ・サインが視認しづらい状況が生じないよう、現場の状況に応じて設置位置を検討する。
- ・詳細な設置位置は、土地管理者等との協議のうえで決定する。



※第1章 P5「対象サインイメージ(1)」再掲

対象サインイメージ(1)



※第1章 P5「対象サインイメージ(2)」再掲

対象サインイメージ(2)

02

総合案内板

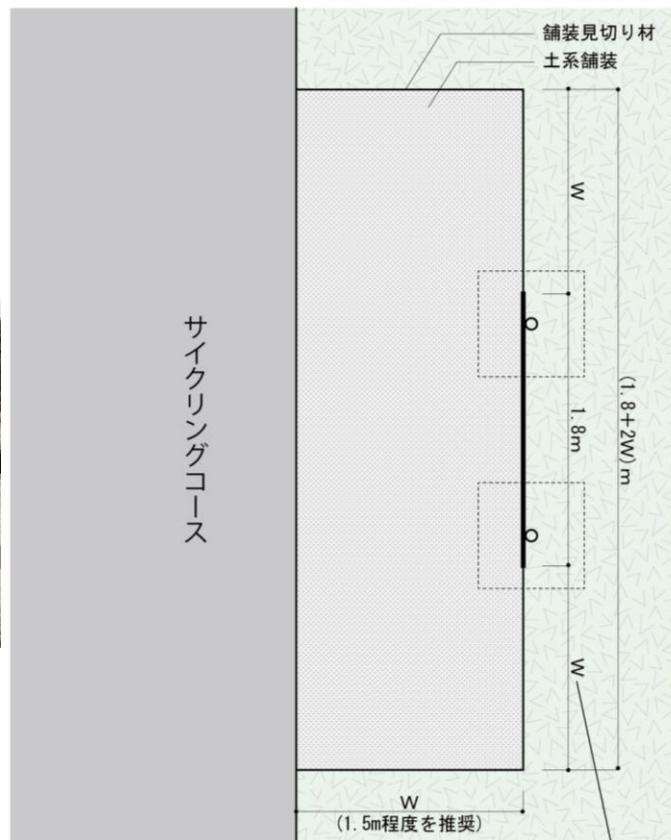
配置

- ・サイクリングコース沿いの公園・緑地で人の滞留が想定される拠点に配置する。
- ・サイクリングコース周辺(約 2km 圏内)のうみさとへのアクセス拠点に配置する。

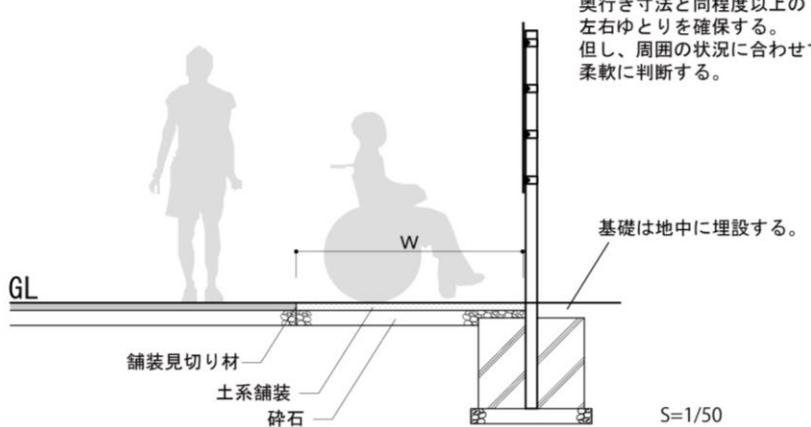
標準配置



サイクリングコース

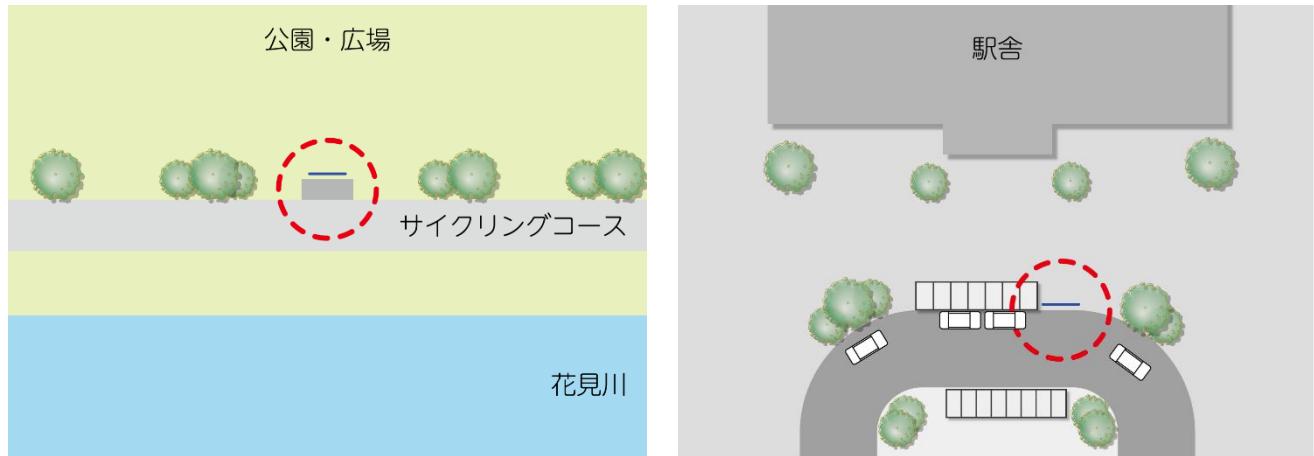


閉塞感を生まないよう、
奥行き寸法と同程度以上の
左右ゆとりを確保する。
但し、周囲の状況に合わせて
柔軟に判断する。



設置位置

- ・その場に留まって見ることを前提に、サイクリングコースと平行を基本として、十分な距離(1.5m程度)を取って設置する。
- ・コース周辺のアクセス拠点では、当該施設の利用に不便が生じないよう十分に配慮し、土地管理者との協議を行ったうえで設置位置を決定する。



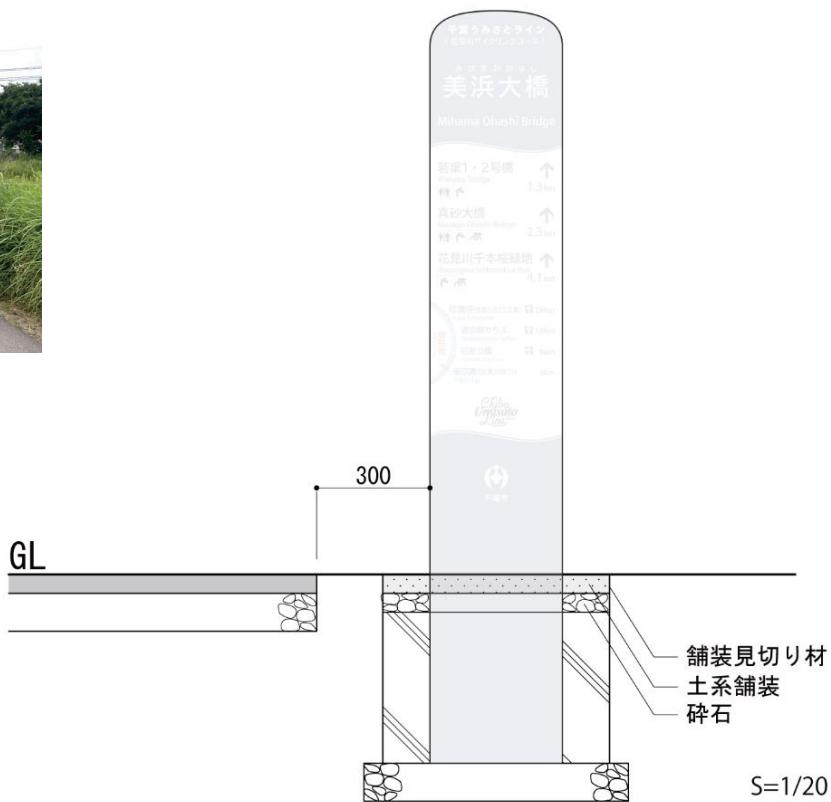
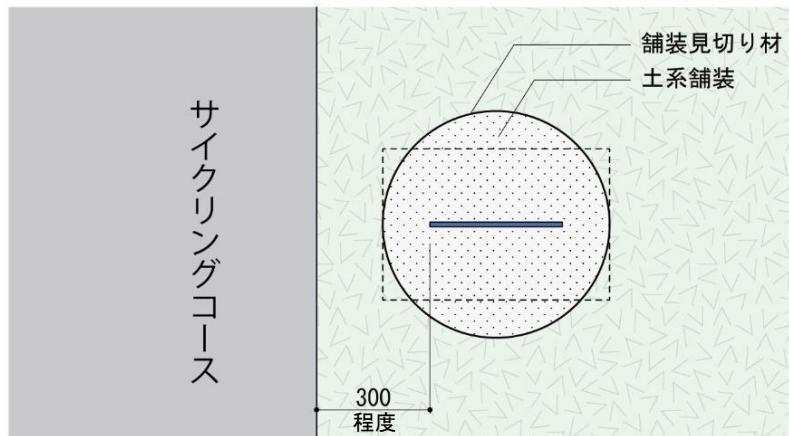
03

案内誘導板
(交差部型)

配置

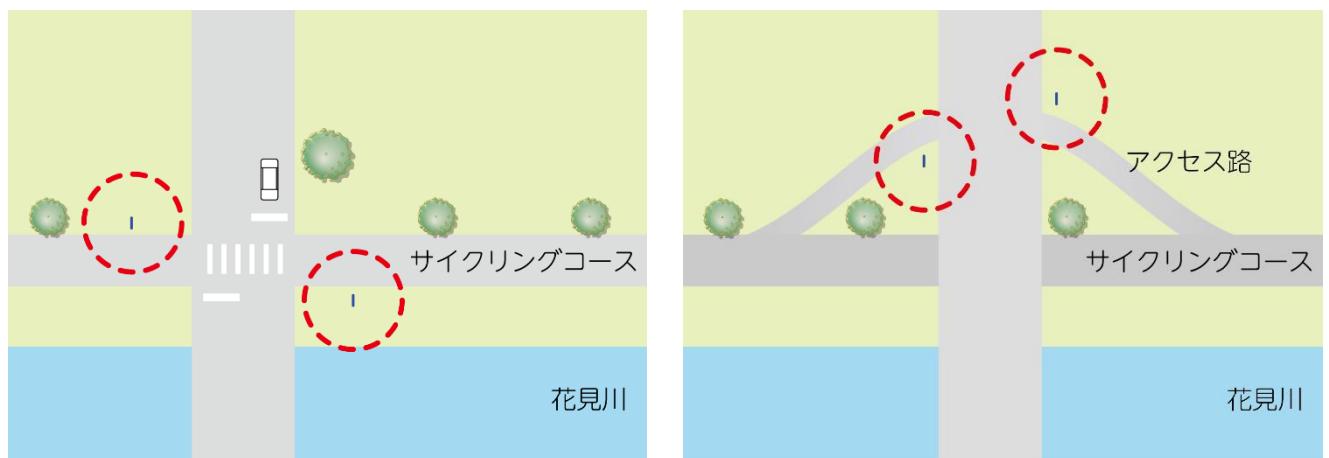
- 一般道路と、サイクリングコースまたはそのアクセス路との交差部に設置する。

標準配置



設置位置

- ・サイクリングコース上の平面交差点(十字路)では、道路を渡る手前側と渡った先にそれぞれ設置する。
- ・サイクリングコース上は、舗装端部から外側 1m の範囲内で、コースに対して垂直に、左側を通行する自転車利用者にとって見やすいよう、進行方向左側に設置することを基本とする。ただし、川側に設置する場合は法肩の地耐力を検証のうえで設置可否を検討する。また、防護柵等のその他付属物に遮られサインが視認しづらい状況が生じないよう、現場の状況を確認したうえで、設置位置を決定する。
- ・コースへのアクセス路が設けられている場合(例:花見川大橋、瑞穂橋、真砂大橋、若葉第1・2号橋、磯辺橋)は、アクセス路と道路の交差部の状況に応じて、土地管理者との協議を行ったうえで詳細な設置位置を決定する。



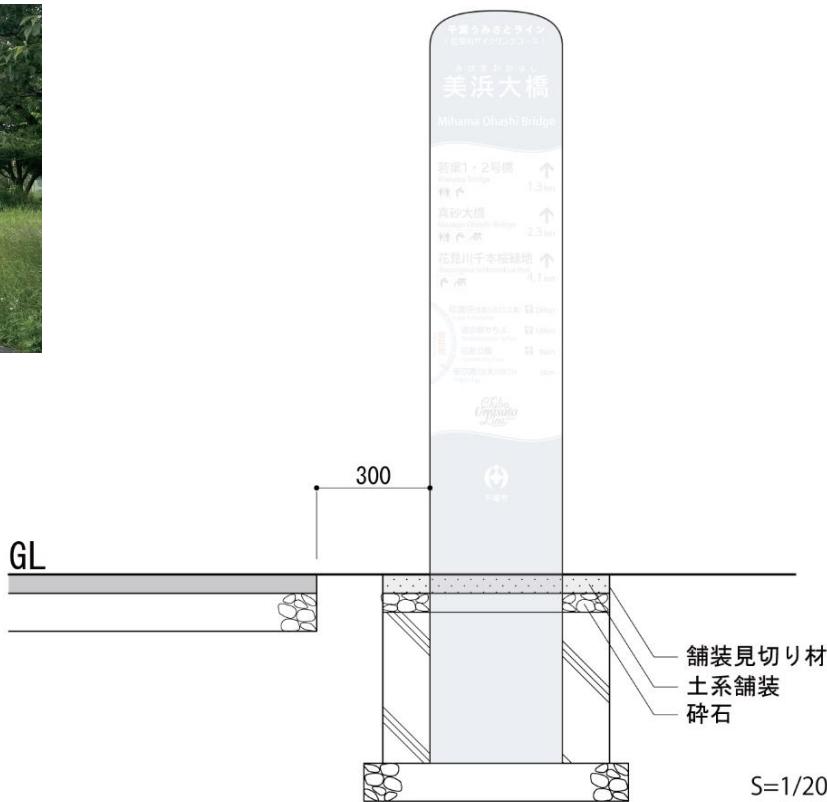
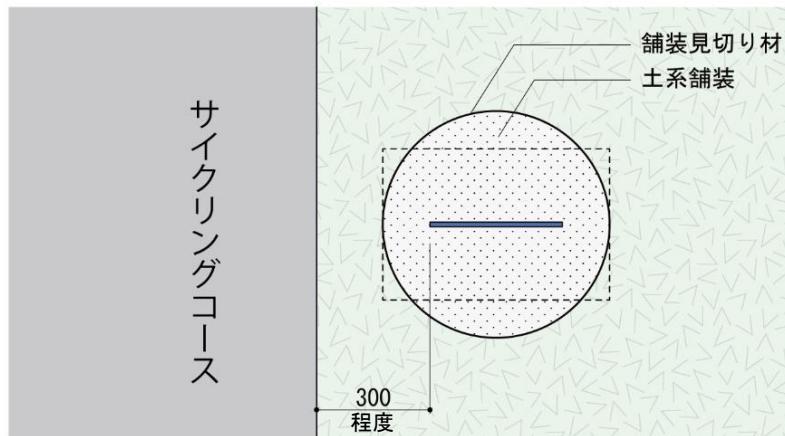
04

案内誘導板 (標準型)

配置

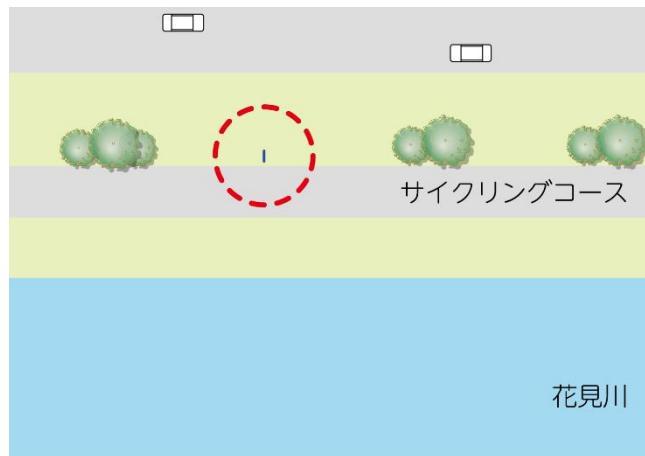
- ・コース上の誘導の拠点となる箇所(橋や公園、結節点)に設置する。
- ・また、サイクリングネットワーク上に位置するコース周辺の商業施設、集客施設付近に設置する。

標準配置



設置位置

- ・サイクリングコース上は、舗装端部から外側 1m の範囲内で、コースに対して垂直に、まち側への配置を基本とする。防護柵等のその他付属物に遮られサインが視認しづらい状況が生じないよう、現場の状況を確認したうえで、設置位置を決定する。
- ・コース周辺の主要施設付近では、当該施設の利用に不便が生じないよう十分に配慮し、土地管理者との協議を行ったうえで設置位置を決定する。



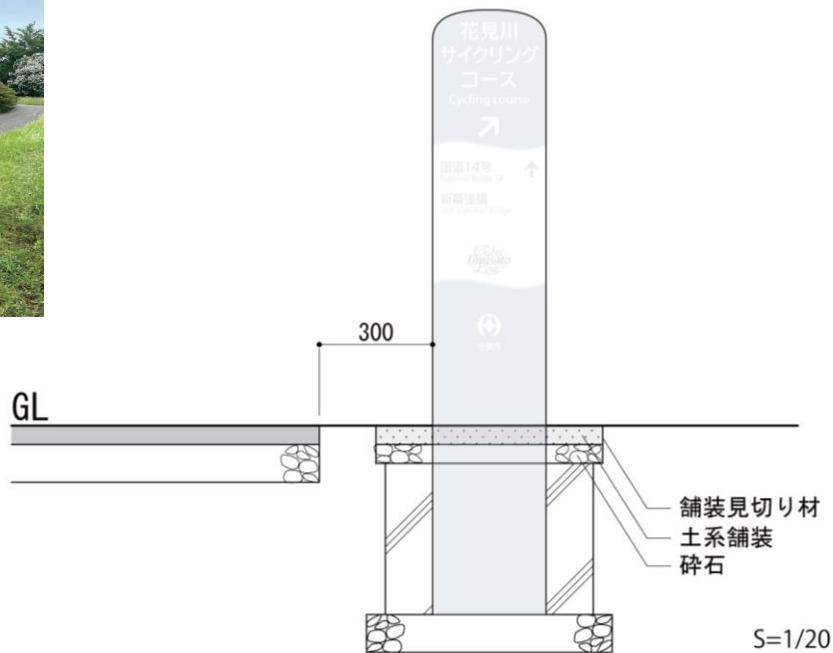
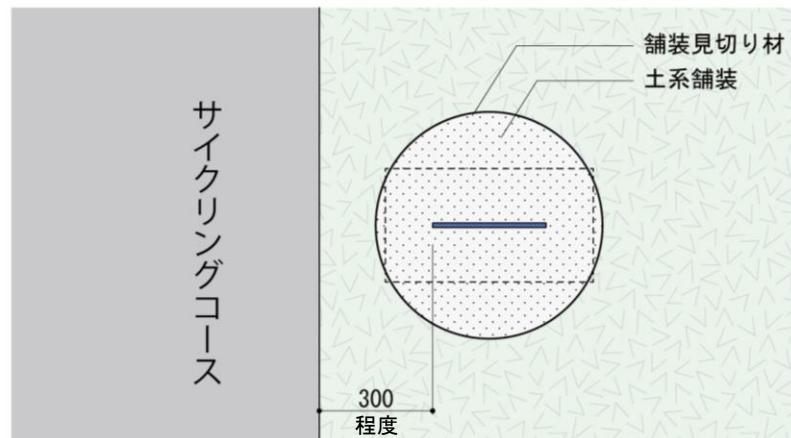
05

分岐板

配置

- ・サイクリングコースが分岐する方向に続いており、正しいルートがわからづらい箇所に設置する。

標準配置



設置位置

- ・コースが進行方向に対して斜めに分岐し正しいルートが分かりづらい箇所の分岐点に、コースに対して垂直に設置することを基本とする。
- ・防護柵等のその他付属物に遮られサインが視認しづらい状況が生じないよう、現場の状況を確認したうえで、設置位置を決定する。



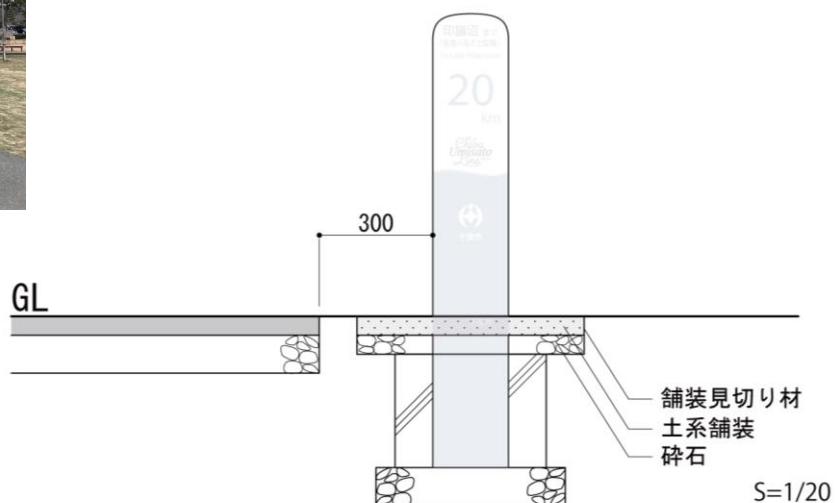
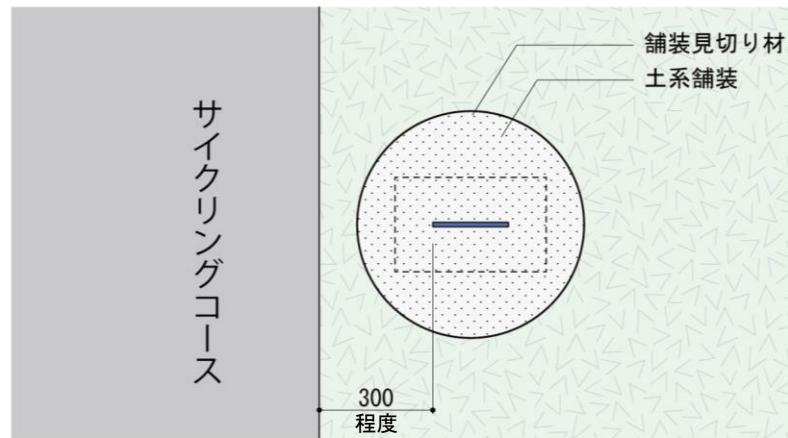
06

距離標 境界標

配置

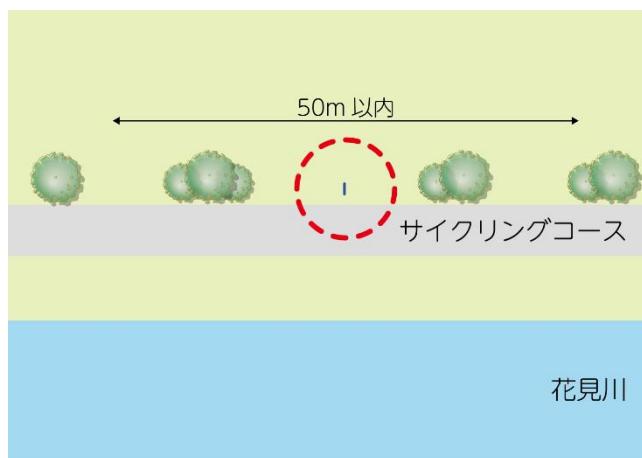
- ・距離標は、東京湾(美浜大橋とサイクリングコースの中心の交点)を起点に、1km 間隔で設置する。
- ・八千代市、佐倉市で設置場所を検討する際には、大和橋を 13km、松保橋を 22km と設定し、距離計測の基準とする。
- ・境界標は、千葉市と八千代市、八千代市と佐倉市の各市境部に設置する。

標準配置



設置位置

- ・サイクリングコースの舗装端部から外側 1m の範囲内で、コースに対して垂直に、まち側への配置を基本とする。
- ・防護柵等のその他付属物に遮られサインが視認しづらい状況が生じないよう、現場の状況を確認したうえで、設置位置を決定する。
- ・設置予定位置でのサイン設置が困難であった場合は、そのサインに限り、前後約 50m 以内で適切な設置位置を検討して良いものとする。
- ・なお、距離標の視認性を高めるため、距離標付近にロゴマークを設置する。



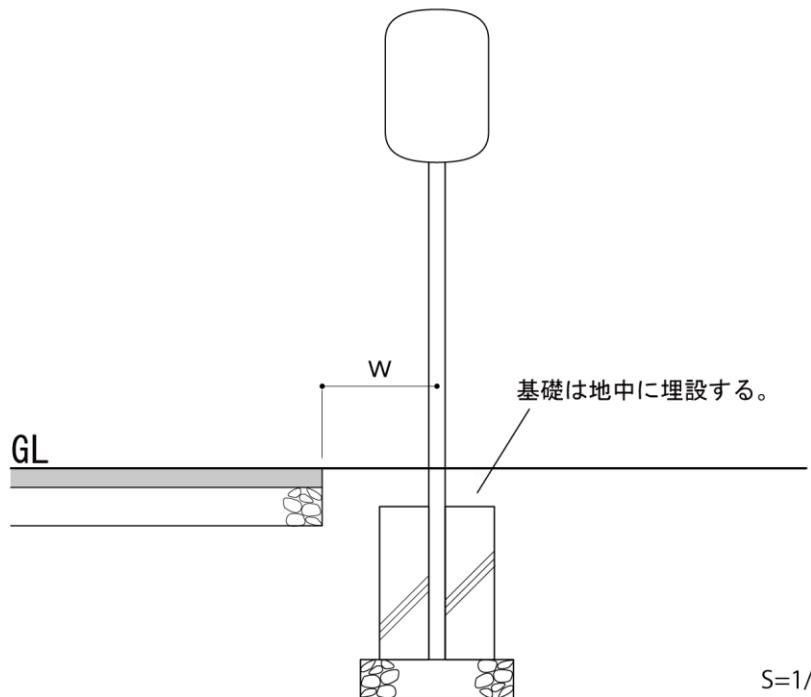
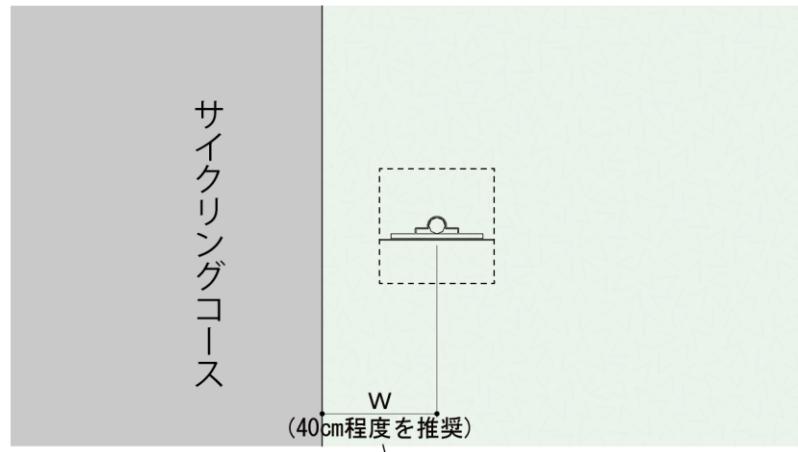
07

規制版

配置

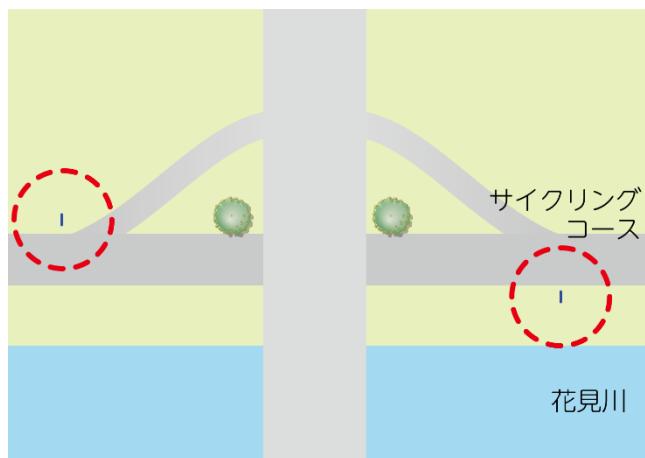
- ・情報の煩雑さの軽減や、景観阻害の防止のため、規制板はむやみに乱立させず、後述する路面表示での対応を基本とする。
- ・既設の規制板の設置場所においては、路面表示への置き換えを検討し、その補足としてより丁寧に注意喚起が必要な箇所に設置(更新)する。

標準配置



設置位置

- ・サイクリングコースの舗装端部から外側 1m の範囲内で、コースに対して垂直に、左側を通行する自転車利用者にとって見やすいよう、進行方向左側に設置することを基本とする。



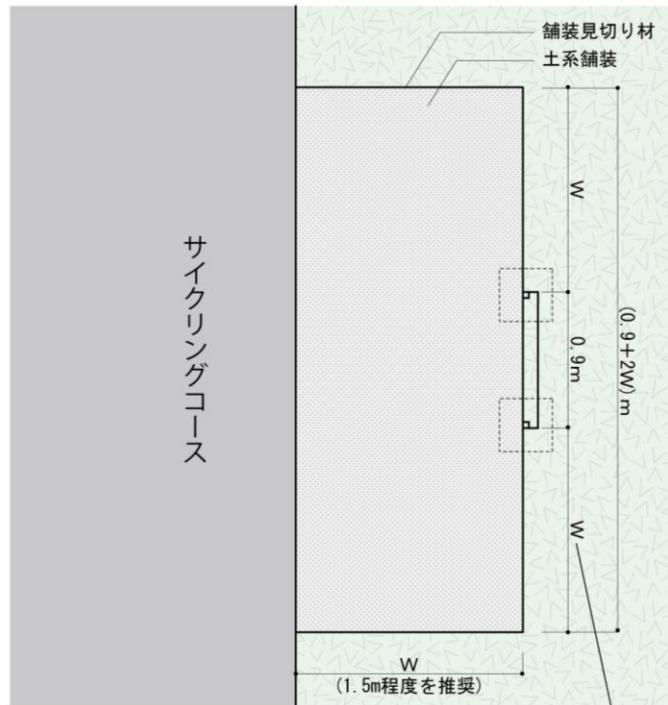
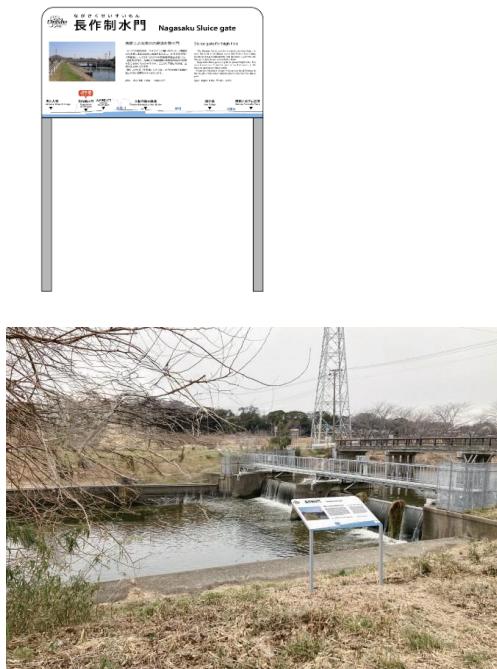
08

解説板

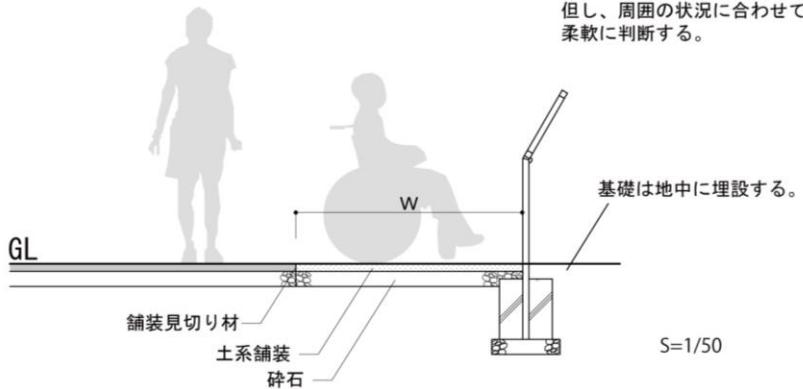
配置

- ・主にサイクリングコース周辺(約2km圏内)の「うみさとビュースポット(2.3参照)」に設置する。

標準配置

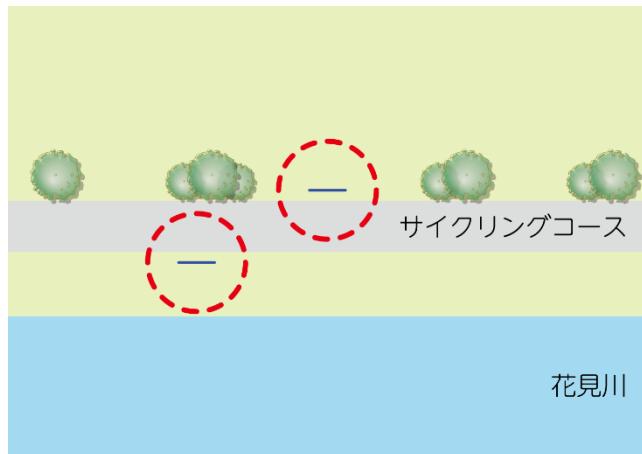


閉塞感を生まないよう、
奥行き寸法と同程度以上の左右ゆとりを確保する。
但し、周囲の状況に合わせて柔軟に判断する。



設置位置

- ・その場に留まって見ることを前提に、サイクリングコースと平行を基本として、十分な距離(1.5m程度)を取って設置する。
- ・当該施設の利用に不便が生じないよう十分に配慮し、土地管理者との協議を行った上で設置位置を決定する。



路面標示

配置

- ・注意喚起、誘導、指示、走行空間標示、減速帯に関して、既設サインの更新が望ましい箇所に設置する。また、上記に関して特に新設が求められる箇所に設置する。
- ・注意喚起(止まれ、カーブ注意)・指示(歩行者優先、徐行)・減速帯は、コースの状況に応じて設置する。「徐行」「歩行者優先」「減速帯」の使い分けを以下に示す。

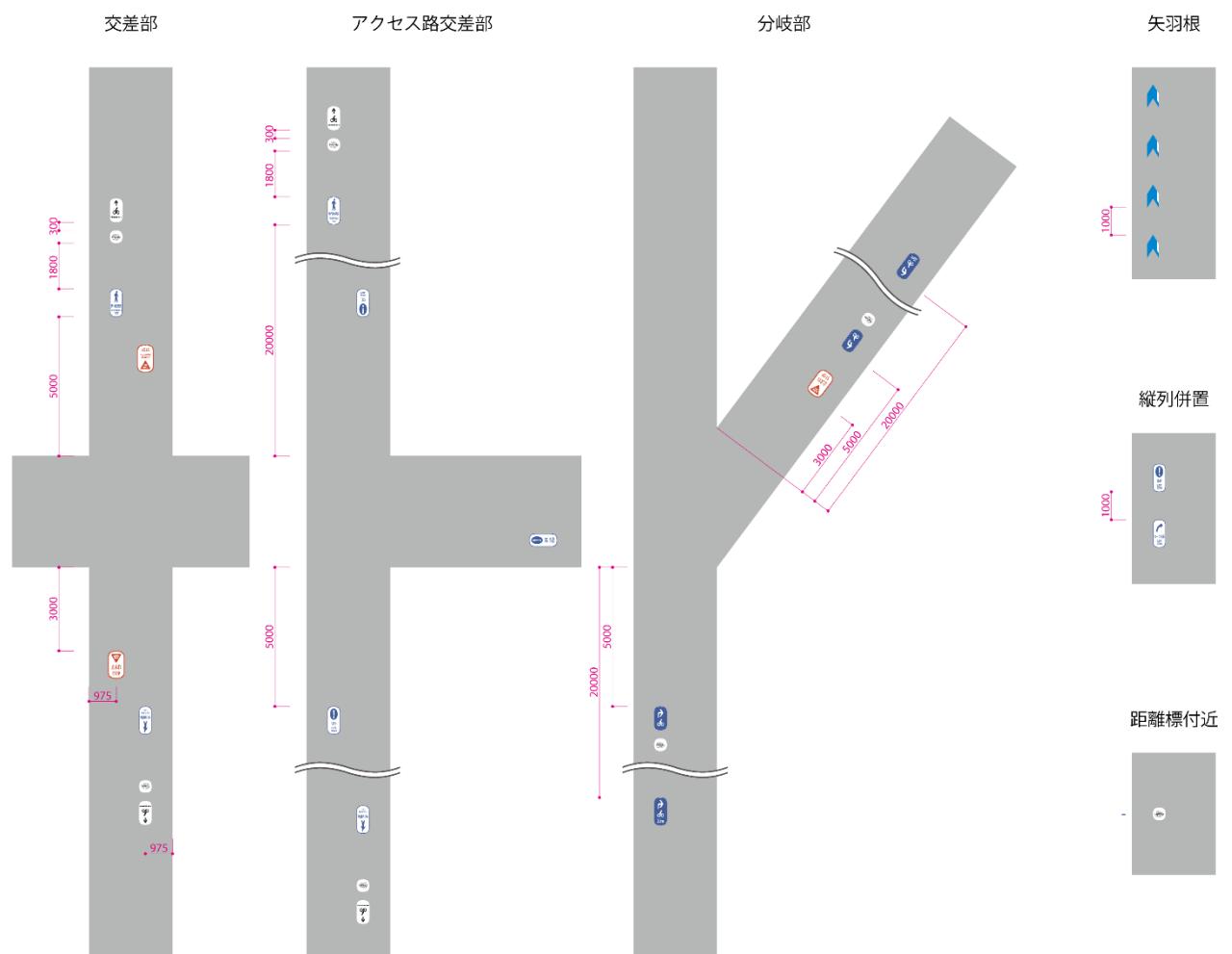


- ・「徐行」は歩行者通行量が多く、特に注意した走行が必要な箇所、「歩行者優先」は歩行者通行量が比較的少ない箇所と、現場の歩行者通行量により使い分ける。また、自転車の交錯が想定されるサイクリングコースに接続するアクセス路には、交差部の手前にも「徐行」を設置し、コース上も同様に設置する。
- ・「歩行者優先」は、サイクリングコースの入口部では、誘導、ロゴマークと合わせて設置する。
- ・「減速帯」は既設サインの設置位置での更新を基本とし、一定の区間で減速が必要な箇所に設ける。
- ・「カーブ注意」を設置する箇所には、現場状況に応じて「徐行」または「減速帯」を合わせて設置する。
- ・必要に応じて「減速帯」の手前に「徐行」または「歩行者優先」を設置することで、より減速への意識を強調させる。
- ・「誘導」は、コースの分岐がわかりづらい地点の 20m 手前と分岐直前にそれぞれ設置するほか、ランニングコースの路面標示が設置されている場合には、ランニングコースの路面標示と合わせてサイクリングコースを誘導する路面標示を設置し、混同が生じないよう配慮する。また、サイクリングコースの入口部では歩行者優先、ロゴマークと合わせてを設置する。
- ・「矢羽根」は、走行ルートがわかりづらい箇所や交差点部の通行帯を示す場合に設置する。
- ・「ロゴマーク」は、分岐直前の誘導と合わせた設置、サイクリングコース入口部の歩行者優先、誘導と合わせた設置のほか、距離標の視認性を高めるため、距離標付近に単独で設置することを基本とする。

設置位置

・コース上または交差するアクセス路等の路面上で、左側を通行する自転車利用者にとって見やすいよう、進行方向左側に設置する。その際、歩行者通行帯を考慮し、コースの舗装端部から路面表示の中心線まで975mm程度内側に離隔を取って設置する。上りと下りの両方に標示が必要である場合は、同一地点であっても上り側、下り側それぞれに設置する。

設置位置



5章 サインの応用展開



5-1 サインの応用展開

サイン整備にあたり、本ガイドラインに記載の原則を遵守しながら、整備するサインを活用していく方法や、サイン整備を契機に展開していく方策として、以下のような例が考えられます。

応用展開の方策

サイン整備との連携内容

サインと連動した
滞留拠点整備

総合案内板や解説板を設置する際に、空間に余裕があれば、滞留拠点としての機能付加を検討する

情報発信媒体
との連携

サイクリングマップやうみさとのポータルサイト等に
サインの内容を反映し連動を図る

ICT 技術を活用した
情報案内

サイン内に二次元コードや AR アイコンを表示することにより、デジタル上での情報案内も検討する

民間施設等への案内誘導
・
ブランドステッカーの配布

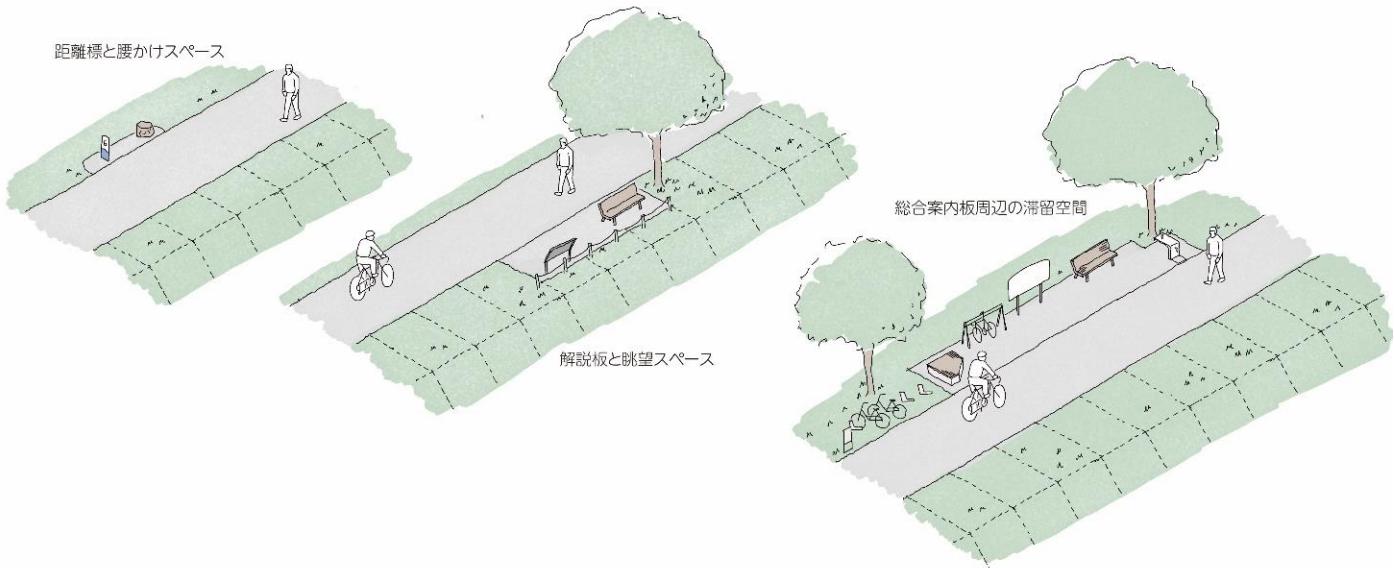
民間施設等でも設置してもらえるような、サインと
統一されたデザインのステッカー配布を検討する

01

サインと連動した滞留拠点整備

かわまちづくり※の取組と連携し、既存の沿線公園緑地を活用するなど、サインと連動した滞留拠点整備を行うことで、さらなる利用環境の向上が期待できます。

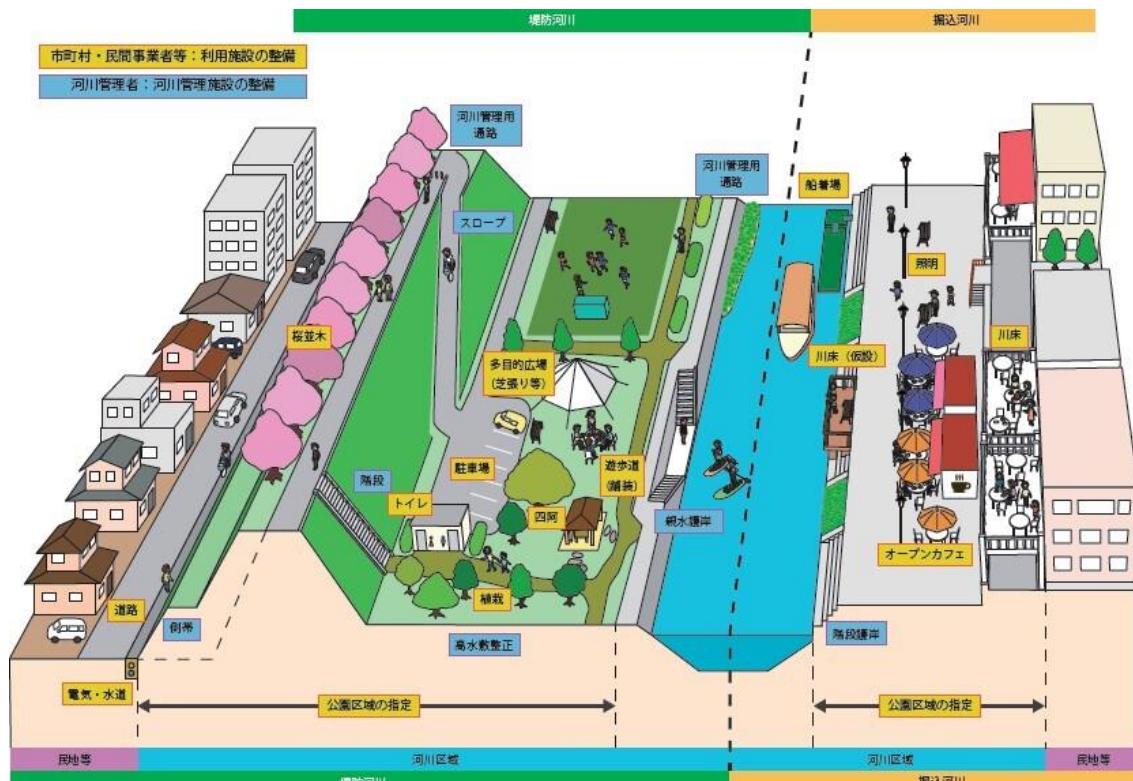
解説板まわりにベンチと滞留空間を整備する、総合案内板周辺にサイクルポートや水飲みを設置する、等の方策が考えられます。



サインと連動した滞留拠点イメージ

※「かわまちづくりとは」

「かわまちづくり」とは、「かわまちづくり」支援制度実施要綱 第2条第1項に定められる河川空間とまち空間が融合し、賑わいあるまちづくりによる地域活性化に資する良好な空間形成を目指す取組をいう。



「かわまちづくり策定の手引き 第1版 令和2年3月
国土交通省水管理・国土保全局河川環境課」より引用

02

情報発信媒体(マップやポータルサイト等)との連携

本ガイドラインに示すサインは、サイクリングコース上の快適な利用環境の創出に加え、うみさとのブランディングや地域の回遊性向上にも寄与するものとしています。

エリアのブランディング・回遊性向上に際しては、サインの整備だけでなく、手に取ってもらったり、WEB 上で気軽に見られるような情報発信の媒体も合わせて整備することが重要です。

そこで、様々な情報発信媒体と連携し、より効果的な情報発信を行うことで、さらなる関係人口の増加、にぎわいの創出、地域活性化、うみさとの価値向上を図ることが可能となります。



ポータルサイト



ポータルサイトでは、うみさとラインのブランドに関する情報に加えて、サイクリングに関する情報として、コースのルートや見どころとなるうみさとビュースポット、休憩スポットやトイレ、周辺のサイクルショップについて発信することで、サイクリングコースだけでなくエリアの回遊性向上につながります。

例として、茨城県で運用されているサイクリングポータルサイトでは、県内のサイクリングに関する情報として、各コースのルートや観光スポット、飲食店、サイクルサポートステーションなどが掲載されています。また、現在地を確認する機能や登録されたコースのルート・スポットの検索する機能などもあり、道に迷うことなくサイクリングを楽しむことができます。

サイクリングマップ

うみさとビュースポットをまとめたうみさと情報マップは、サイクリングマップとして、各スポットや駅などの拠点で配布したり、サインに掲載されたQRコードからデジタルマップを閲覧できるようにすることも考えられます。



03

ICT技術を活用した情報案内

二次元コードの表示

公共サインにおけるICTの活用として、盤面に二次元コード等を表示し、携帯端末を利用して、関連情報にアクセスするなどの方法が考えられます。利用者は、大量で詳細かつタイムリーな情報を、その場で得ることができます。

標準仕様で得られる情報だけで十分な案内誘導機能を果たすことが基本であり、携帯端末によって得られる情報は付加的な位置づけとします。

二次元コードによるリンク先の内容については、今後協議会等の場で検討を進めていくものとします。



ARシステムの導入

ARとは、スマートフォンやタブレット上のカメラで、現実空間と重ね合わせてモデルが表示されるシステムを指し、近年は、エリアの回遊性向上や来訪のきっかけづくりを目的に、謎解きウォーキングイベントや周辺案内等にも利用されています。

サイン整備にあたって、ARの機能も用いて周辺施設やイベント等の周知・案内をすることで、様々な情報を入手し楽しみながら地域を巡ってもらい、花見川サイクリングコースを中心に回遊性の向上を図ること、千葉うみさとライン全体でかわとまちが一体となったかわまち空間を創出することが可能となります。

ARを用いて提供できるサービスの例として、周辺施設への案内誘導、地域資源巡りイベント、ARフォトフレーム等での利用が考えられます。

例えばサイン上に示される千葉うみさとラインのロゴマークを ARマーカーに設定したアプリケーションを構築し、ARマーカーを利用者自身のスマートフォン等の端末で読み込むことで、アプリケーション上で提供するサービスにアクセスすることが可能となります。



ARフォトフレームを用いた写真撮影機能の事例
(高知県四万十町)

引用:クラウドサーカス HP LESSAR

04

民間施設等への案内誘導・ブランドステッカーの配布

公共でのサイン整備には予算や設置できる箇所に限りがあるなかで、うみさとライン協議会等の場を通じて、民間敷地等でも設置してもらえるような、サインと統一されたデザインのステッカーを作成し配布することが考えられます。

さらに、このステッカーを設置している民間施設と、前述のポータルサイトでの案内の連携を図ることも想定されます。

これにより、うみさとエリアとしてのさらなるブランディング強化や、サイクリングコースとの回遊性向上が期待できます。

● 効果的なステッカー設置場所の例

- ・自転車修理施設、サイクルショップ
- ・サイクルポート
- ・ブランディング活動に賛同する飲食店、宿泊施設、土産物店
- ・民間観光施設(物産販売所、キャンプ場等)



ステッカー設置イメージ

6章 今後の運用

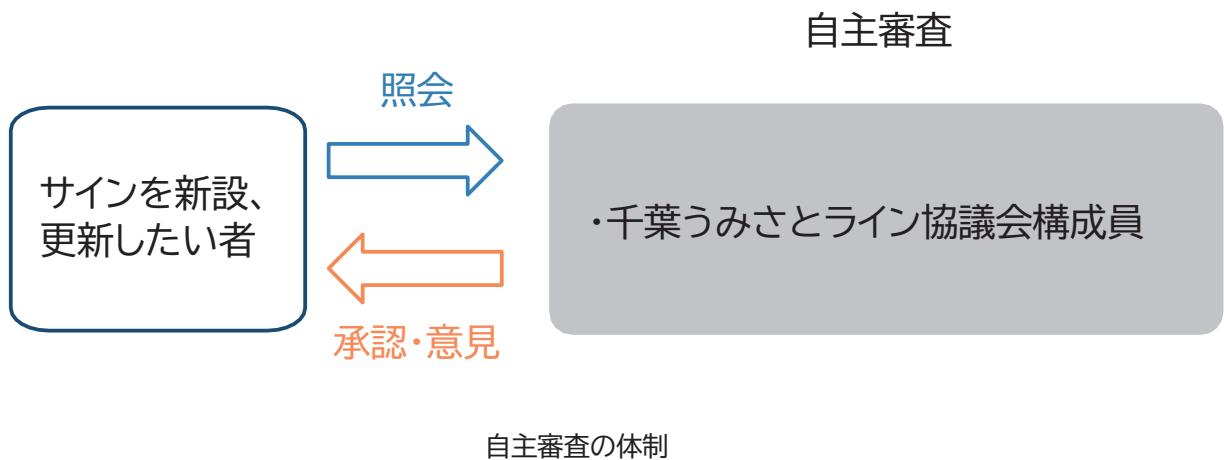


6-1 新設・更新の際の協議体制

サインシステムの整備にあたっては、八千代市・佐倉市の2市や千葉県、その他関係者が管理するサインを含めて、今後新設や更新を行うサインのデザインをコントロールすることが重要です。統一されたサインデザインが適切に反映されるよう、新設・更新を行う主体との協議体制を以下に示します。

ポイント

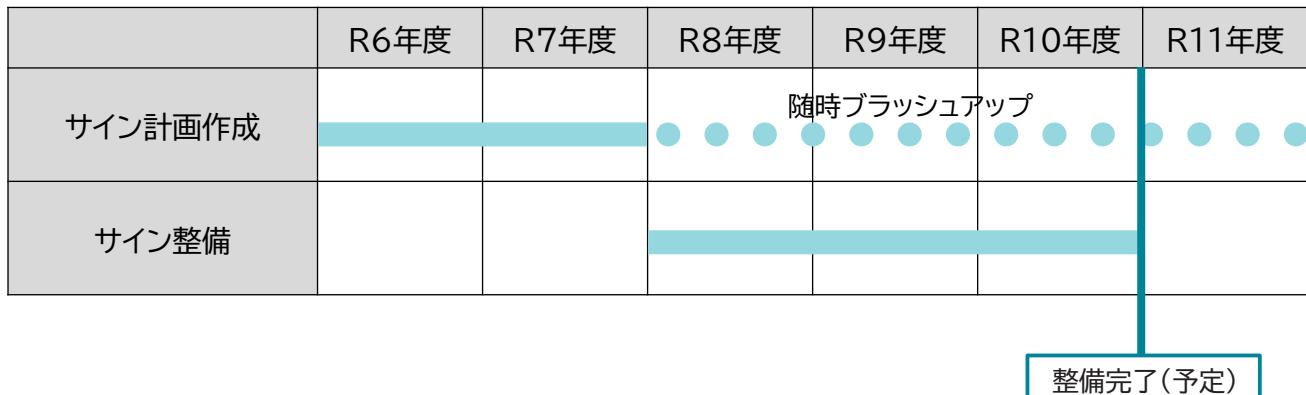
- ・協議会メンバーおよびデザイナーで自主審査を実施する。
- ・サインを新設・更新したい者は、本ガイドラインに則ったサインデザインを検討したうえで千葉うみさとライン協議会(窓口:千葉市都市局都市政策課)に事前の照会を行うこととし、面的な整備計画の内容など影響が大きいと考えられるものについては協議会を開催し審査を実施する。ただし、仮設的に設置するサインについてはその限りではない。



また、上記の協議体制に則りサインの新設・更新を行っていくことについて各関係者間で協議のうえ実行することとします。

6-2 整備に向けたスケジュール(案)

サイン整備の実現に向けては、「印旛沼・印旛放水路かわまちづくり計画」に基づく水辺拠点の整備を令和10年度までに行うこととしているため、これに併せて、サイン整備についても令和10年度の整備完了を目指します。



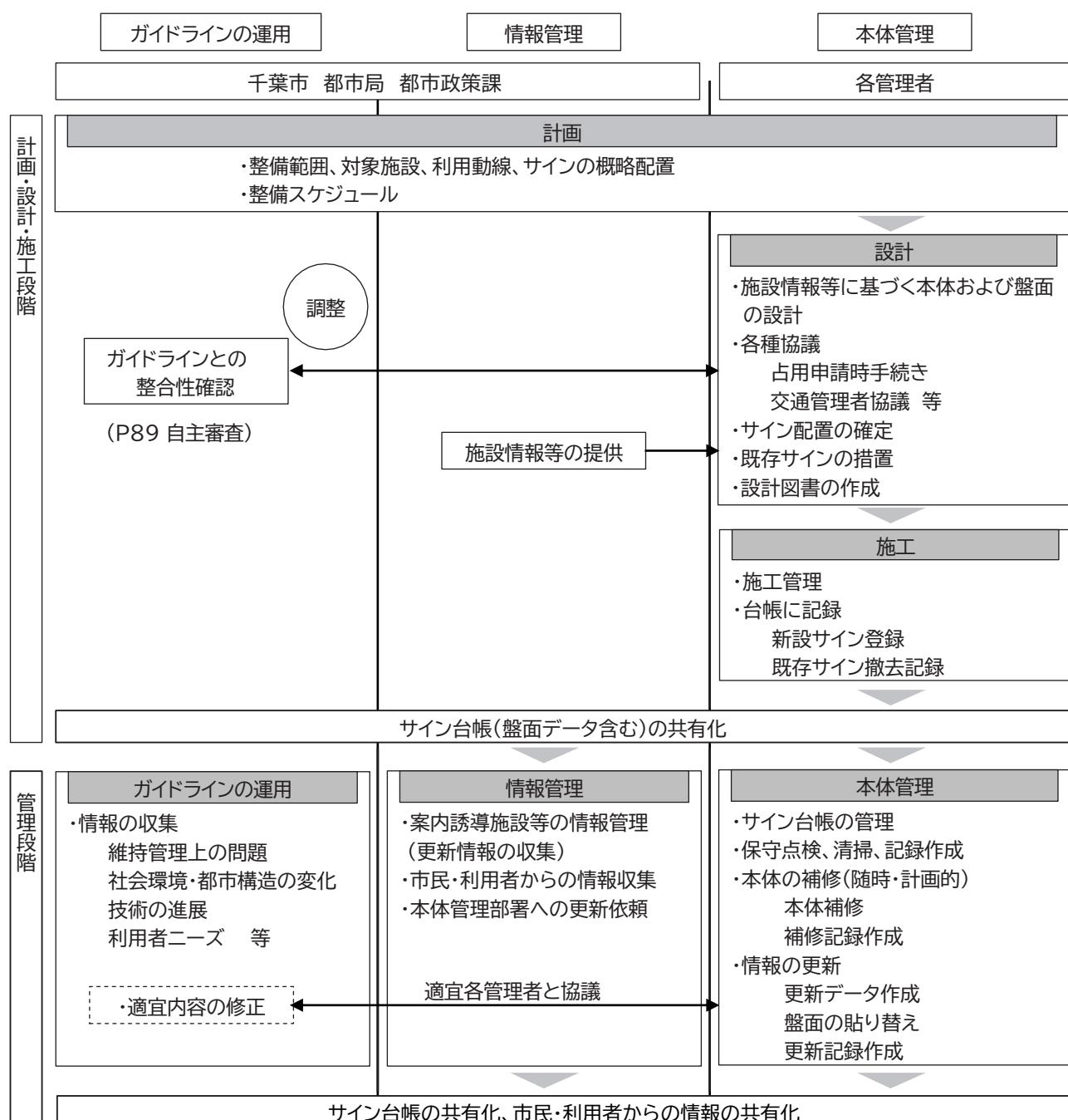
整備に向けたスケジュール(案)

6-3 管理運用体制

システム化されたサインの整備にあたっては、一度整備して完了ではなく、整備したサインを適切に管理していくことも重要です。

本ガイドラインの適用範囲(1-2参照)に示されるサインについて、対象を「ガイドラインの運用」「情報管理」「本体管理」に分け、担当部署と役割分担を設定した組織的かつ一元的な管理運用体制を構築します。本ガイドラインでは、千葉市における体制を示します。

また、千葉市区間のみならず、千葉うみさとライン協議会への定期的な報告および意見照会を行い、3市共通での管理運用を図ります。



管理運用体制イメージ

6-4 管理運用の内容

公共サインの管理段階における「ガイドラインの運用」「情報管理」「本体管理」について、具体的な管理内容を以下に示します。

ガイドラインの運用

項目	内容	
実施者	ガイドラインの運用管理部署	
実施時期	随時	
実施内容	ガイドライン運用管理	<ul style="list-style-type: none">○適正な運用<ul style="list-style-type: none">・計画段階での事前協議による計画把握・設計段階でのガイドラインとの整合性確認(P89 自主審査)○修正等<ul style="list-style-type: none">・ガイドラインの部分的な修正や追補、および関係者への内容周知○情報収集<ul style="list-style-type: none">・公共サインを取り巻く環境・ガイドライン運用上の問題点○再点検<ul style="list-style-type: none">・情報収集、運用上の課題把握に基づくガイドラインの再点検・運用開始から一定期間を経過したことによるガイドラインの再点検○改訂<ul style="list-style-type: none">・ガイドラインの改定検討および関連部署等との協議・改訂版の作成および関係者への周知

情報管理

項目	内容	
実施者	情報管理部署	
実施時期	随時	
実施内容	日常管理	<ul style="list-style-type: none">・サインの表示する情報内容について、ガイドラインに基づき正確性や妥当性を注視・市民、利用者からの情報受付、対応・サインに表示する内容の更新情報等の収集
	補修等	<ul style="list-style-type: none">・本体管理部署へのサイン表示情報の更新依頼
	管理書類等	<ul style="list-style-type: none">・市民、利用者の提供情報記録

本体管理

項目	内容	
実施者	本体管理部署	
実施時期	点検:随時 補修時:随時・計画的	
実施内容	点検	<ul style="list-style-type: none">・本体のがたつき、歪み、傷、塗装のはがれ等の確認・ホコリや汚れの清掃、違法な貼り紙や落書きの除去・利用者の視認性や接近の妨げとなる障害物等の除去
	補修時	<ul style="list-style-type: none">○本体および盤面の補修(利用に支障をきたす損傷や劣化への対応)<ul style="list-style-type: none">・必要な補修、計画的修繕の実施(塗装、部品交換、移設 等)○サイン表示情報の更新(情報管理部署依頼への対応)<ul style="list-style-type: none">・盤面データの修正・表示部分の更新(シートの貼替・上貼、パネル交換 等)
	管理書類等	<ul style="list-style-type: none">・サイン台帳の管理(登録、更新等)・定期点検記録・補修記録、更新記録

千葉うみさとライン(花見川サイクリングコース)サインガイドライン
令和7年10月

発 行 千葉市都市局都市政策課 かわまちづくり班
住 所 千葉県千葉市中央区千葉港1番1号
千葉市役所高層棟4階
電 話 043-245-5299